

よみきかせブックリスト

—小学生向き—

おはなし（物語）のえほん	低学年向き	p. 2
	中学年向き	p. 18
	高学年向き	p. 34
	どの学年でも	p. 45
むかしばなし・民話のえほん	日本	p. 51
	外国	p. 60
科学のえほん		p. 69
ことばのえほん		p. 83

掛川市立図書館

このリストは、主に小学校でのよみきかせの際、参考にさせていただけるよう、集団でも楽しんでいただける本を選んで作成しました。

リスト中の「時間」は、おおよその目安としてご利用ください。

よみきかせ、ワンポイントアドバイス

〈絵本の持ち方〉

- ◎ グラグラさせないように、しっかり持つ。
- ◎ 手や頭が絵のじゃまにならないようにする。(めくるときも)
- ◎ 上向きにならないようにする。
- ◎ 部屋の明るさを考えて、本に光が当たらないようにする。

〈読み方〉

- ◎ 本に書いてあるとおりに読む。
- ◎ とちゅうに解説を入れたり、聞き手の呼びかけにこたえたりしない。
- ◎ おはなしの内容にあったテンポ、声の大きさではっきりと読む。
- ◎ 必要以上の声色や手振り、身振りはしない。
- ◎ 表紙からおはなしが始まっているものや、裏表紙まで続いているものは、ちゃんと見せる。
- ◎ 表紙と裏表紙で一つの絵になっているものは、読み終わった後に開いて見せてあげるとよい。
- ◎ 読み終わったあと感想を聞かない。



おはなし（物語）のえほん

～低学年向き～

『1と7』

ひかりのくに 2004年 Eタ

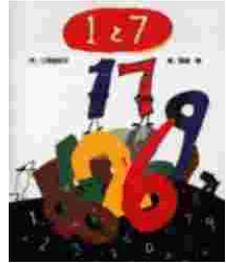
二宮由紀子 作

高島純 絵

時間：6分

数字の1と7がけんかをしました。読み方も形もそっくりな1と7。お互いを「まねしんぼ」だと言いあって…。

そっくりなふたりは、お互いをライバル視。仲直りはできるのでしょうか？



『10にんのきこり』

講談社 2007年 Eラ

A. ラマチャンドラン 作 時間：3分

10にんのきこりが森の10本の木を1人1本ずつ切っていきます。あれ？よく見ると木の後ろになにかいるような…。

0（ゼロ）になるしかけが隠されているところがおもしろいおはなし。



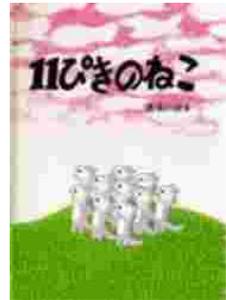
『11匹きのねこ』

こぐま社 1978年 Eハ

馬場のぼる 作 時間：6分

11匹のはらぺこなねこたちは、大きなさかながいと聞き、力をあわせてさかなをつかまえます。みんなに見せるまで食べないと約束するのですが…。

30年以上にわたって愛されている、楽しいおはなし。



『あしたうちにねこがくるの』

講談社 2000年 Eサ

石津ちひろ 文

ささめやゆき 絵

時間：4分

明日、家にネコがくるの。どんなネコかなあ…。ネコを飼えることになった喜びと、どんなネコかなという期待と不安が楽しく伝わってきます。



『あめふり』

福音館書店 1987年 Eサ
さとうわきこ 作 時間：5分



毎日毎日雨ばかり。雨にあきあきしたばばあちゃんは、ストーブに火をつけてこしょうやとうがらしをほうりこんだ。するとからいからい煙が空一面に広がって…。

梅雨の季節にぴったりのおはなし。中ほどにページが縦になるところがあるので見せ方に注意しましょう。

『あらまっ!』

小学館 2004年 Eシ
ケイト・ラム 作
エイドリアン・ジョンソン絵 時間：4分

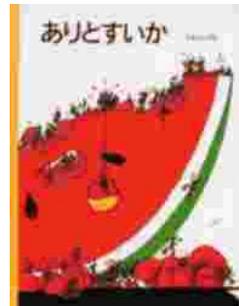


おばあちゃんのところにお泊りにいったパトリック。おばあちゃんは「はやく寝なさい」っていうけれど、「ぼくのベッドなんかどこにもないよ」そこで、おばあちゃんは「あらまっ!」とさげんで大活躍…。

ちょっとドタバタで、おかしなおかしなおやすみなさいのおはなし。

『ありとすいか』

ポプラ社 2002年 Eタ
たむらしげる 作 時間：3分



ある夏の日、スイカを見つけたアリたち、アリにとっては大きすぎるスイカを巣まで運ぶ作戦が始まりまず。

大きく描かれたスイカのまわりにたくさんのアリたちが、それぞれいろいろな動きをしています。アリの巣も楽しく、読後にじっくり絵を見たいおはなしです。

『うちのなまくらさん』

評論社 1992年 Eシ
ポール・ジェラティ 作 時間：3分



うちのネコって、いつもゴロゴロしているの。だからみんなにごろすけって呼ばれてる。でもほんとうかな…。

飼い主が知らないところでは、と想像させる不思議さがネコにはあるようです。絵をよーく見ると、いろいろなことが起こっています。

『ウポポウポポポタージュスープ』

すずき出版 2006年 Eミ

越智のりこ 作

みうらし〜まる 絵 時間：6分

もえこはお母さんが作るポタージュスープがだいすき。すると「ウポポポポポ」。えっ、スープがしゃべった！小さくなってスープの中に入ると、野菜たちが歌っています。



本当に歌ってもいいし、歌っているように節をつけて読んでも楽しいでしょう。

『ウラパン・オコサ かずあそび』

童心社 1999年 Eタ

谷川晃一 作 時間：3分

かずに興味を持った子に、不思議な言葉でかずあそび。「1がウラパン、2がオコサ、3がオコサ・ウラパン」と数えるおはなし。

1と2だけでたのしく遊べる、ちょっとふしぎな「かずあそび絵本」。



『うんちしたのはだれよ！』

偕成社 1993年 Eエ

ヴェルナー・ホルツヴァルト 文

ヴォルフ・エールブルッフ 絵 時間：5分

ある日、頭の上にウンチを落とされるといふ災難にあったモグラくんは、犯人探しに出かけます。

モグラくんが、やっと見つけた犯人にした仕返しも楽しいおはなし。どの動物がどんなウンチをするのかもわかります。



『おおかみのごちそう』

偕成社 1999年 Eタ

木村裕一文

田島征三 絵 時間：3分

はらぺこのオオカミがコブタを見つけた。コブタを追いかけていくうちにオオカミの頭の中でコブタはどんどん大きくなっていて…。

ちょっと間抜けなオオカミの楽しいおはなし。



『おかえし』

福音館書店 1989年 Eオ

村山桂子 作

織茂恭子 絵 時間：8分

ある日、たぬきの家のとなりに引っ越してきたきつねのおくさんが、あいさつに来て、いちごをたくさんくれました。たぬきのおくさんは、いちごのおかえしにたけのこを持っていきました。すると、きつねのおくさんは…

礼儀正しい？たぬきときつねの楽しいおはなし。



『おじいさんならできる』

福音館書店 1998年 Eキ

フィービ・ギルマン 作・絵 時間：6分

ヨゼフが生まれたときに、おじいちゃんが縫ってくれたすてきなブランケット。ヨゼフの成長とともにブランケットもおじいちゃんによって生まれかわっていきます。

縁の下ではネズミの家族にも同じようなおはなしが続いているようです。



『おなべおなべにえたかな』

福音館書店 1997年 Eコ

こいでやすこ 作 時間：5分

おばあちゃんの家でおるすばんをしている間に、にんじんスープを食べてしまったきつことちいとい。するとおなべが春のスープの作り方を教えてくれましたよ。

春の味のするたんぼぼスープが食べたくなるおはなしです。



『おまじないさん』

ベネッセ 1997年 Eス

舟崎克彦 文

スズキコージ 絵 時間：4分

ぼくってほんとによわむし。夜、ひとりでおしっこにもいけない。でも、おまじないさんがこわくなるおまじないを教えてくださいましたよ。

おまじないのことばが楽しく、またラストに立場が逆転するところもおもしろいおはなし。



『オレ・ダレ』

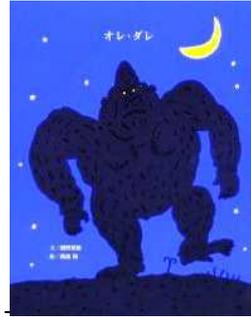
講談社 2002年 Eタ

越野民雄 文

高島純 絵 時間：4分

月夜にうかぶシルエット。ワタシがだれだかわかりますか？

シルエットと本人が出すヒントで何の動物かわかります。シマウマなどわかりづらいものも少しあります。



『きつつきぎゅうぎゅう』

ほるぶ出版 1995年 Eシ

シュリア・ドナルドソン 文

アクセル・シェフラー 絵 時間：5分

家が狭くて困ったおばあさんは、ものしりおじいさんに知恵をかしてもらいます。おじいさんに言われたとおりにするのですが、なんだか変です…。

昔話にありそうなおはなし。絵も楽しくおはなしにあっています。



『きつねをつれてむらまつり』

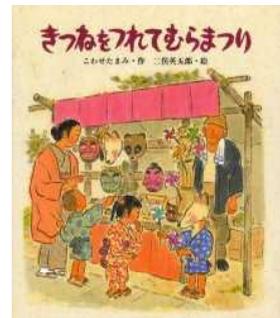
教育画劇 1990年 Eフ

こわせたまみ 作

二俣英五郎 絵 時間：6分

ごんじいは、子ぎつねにお面をかぶせてむらまつりに連れて行きます。子ぎつねは顔がきつねのままだということに気づいていません。

子ぎつねがかわいらしく、ごんじいとのおはなしが心にあたったおはなしです。



『コッケモーモー！』

徳間書店 2001年 Eハ

ジュリエット・ダラス・コンテ 文

アリソン・バートレット 絵 時間：3分

どうしよう！ 鳴き方わすれちゃった！ いくらがんばっても「コッケコッコー！」を思い出せないおんどり。みんなにばかにされたり、心配されたり。その夜、あやしい物音がして…。

大きな声で読みたい、楽しい絵本。



『さるのせんせいとへびのかんごふさん』

ピリケン出版 1999年 E A

穂高順也 文

荒井良二 絵 時間：7分

どうぶつむらに新しくできた病院には、さるの先生とへびのかんごふさんがいます。へびのかんごふさんは注射器になったり、胃カメラになったりと大活躍。

へびのかんごふさんなら本当にこんなこともできるかも！楽しいおはなしです。



『ジオジオのかんむり』

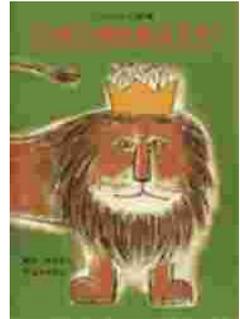
福音館書店 1960年 E ナ

岸田衿子 作

中谷千代子 絵 時間：4分

ジオジオはライオンの中でも一番強く、だから冠をのせています。年をとって動物を追い回すより、ゆっくり話をしてみたくなったジオジオに、鳥が話しかけてきました。

最後のページの目が見えなくなっても満足げなジオジオの表情から、幸せなことがわかります。



『しらないいぬがついてきた』

鈴木出版 2003年 E コ

小林与志 作 時間：2分

ぼくの後を知らない犬がついてくる。犬から逃げようとしていたら、迷子になっちゃった！

迷子になってからは、ぼくが犬の後をついていきます。



『しんせつなともだち』

福音館書店 1987年 E ム

方軼羣 (ふぁん いーちゅん) 作

村上知義 絵 時間：4分

寒い冬。こうさぎはかぶを2つみつけました。ともだちのロバの家になつてくるのですが…。

寒い冬に友だちを思う気持ちがあたたかいおはなしです。



『せんたくかあちゃん』

福音館書店 1982年 Eサ
さとうわかこ 作 時間：4分

せんたくが大好きなかあちゃん。犬や猫、子どもたちまで洗って干していると、汚れたカミナリが落ちてきた！

こんな元気でうでっぷしの強いかあちゃん
が家にいたら、子どもたちは安心でしょうね。
雨が降ったり、カミナリが鳴る季節にぴったりのおはなし。



『タンゲくん』

福音館書店 1992年 Eカ
片山健 作 時間：5分

タンゲくんはのら猫。「わたし」の家にある日ふらつとやってきました。ところが、昼間は「わたし」の知らないところに勝手に行ってしまう。いったいどこに行っているのかな…。

独特の強いタッチで描かれた「タンゲくん」と女の子の交流を描いた絵本。



『だんだんやまのそりすべり』

福音館書店 2002年 E二
あまんきみこ 作
西村繁男 絵 時間：8分

人間のいっちゃんとキツネのいっちゃん。どちらもソリがこわくて上手にすべることができません。山の上にとりのこされた2人のいっちゃんは、いっしょにソリのけいこをすることにします。

人間の子どもたちと動物の子どもたちが仲よくソリ遊びをする様子はとても楽しそう。寒いけれど、ほっこりあたたかくなれるおはなしです。



『ちょろりんのすてきなセーター』

福音館書店 1998年 Eフ
降矢なな 作 時間：9分

とかげのちょろりんは、町で見つけたセーターがほしくてじいちゃんの仕事を手伝います。そしてお金を持ってお店に行きますが、ちょろりんのほしかったセーターは…。

じいちゃんやびきびきおばさんのやさしき、ちょろりんのいっしょうけんめいさが気持ちをあたたくしてくれます。



『月へミルクをとりにいったねこ』

福音館書店 1996年 Eス
アルフレッド・スメードベルイ 作
垂石眞子 絵 時間：10分

かあさんねこは、こねこたちのために、月へミルクをもらいに行くことにします。すると牧場のほかの動物たちもついてくるのですが…。

日本では、月ではうさぎがもちつきをしているというのが一般的ですが、世界ではいろいろな模様に見えるようです。月明かりに照らされた農場や森が色使いから伝わります。

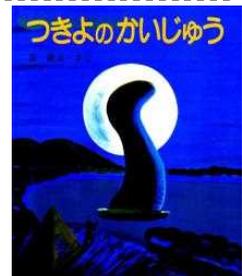


『つきよのかいじゅう』

佼成出版社 1990年 Eチ
長新太 作 時間：4分

かいじゅうがいるという湖で、男はずっと待っていた。月夜の晩、ついにかいじゅうが姿を現した！？

ボンボコの音の強弱を工夫して読んでみてください。

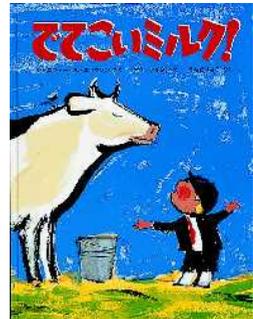


『でてこいミルク!』

福音館書店 1995年 Eア
ジェニファー・A・エリクソン 作
オラ・アイタン 絵 時間：4分

都会の男の子。めうしにキスしたり、エサを食べさせたりしますが、ミルクはできません。どうしたらミルクがでるのでしょ。

ミルクが無事にでるか、牧場のほかの動物たちも見守ります。でたときみんなのうれしそうな表情！色使いも明るく元気な絵本です。



『でんきがまちゃんとおなべちゃん』

学研 2006年 Eナ
長野ヒデ子 作 時間：7分

でんきがまちゃんとおなべちゃんは、ネコやくまさんたちにご飯とみそ汁を全部食べられてしまいます。こまった二人の声を聞いて、てつなべいちゃんと、おかまばあちゃんが助けに来てくれます。

おかまばあちゃんとしてつなべいちゃんの歌のところは、拍子をつけて読みましょう。食育を考えるときにも使えます。



『てんきよほうかぞえうた』

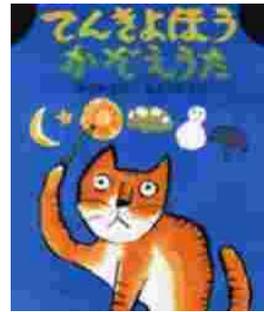
福音館書店 2004年 Eユ

岸田衿子 文

柚木沙弥郎 絵 時間：5分

一から十までと百、千、万、億の天気のかぞえうた。

うたのほうはリズムよく、天気予報とは調子を変えて読んでみてください。



『どうぶつにふくをきせてはいけません』

朔北社 2005年 E八

シュディ・バレット 文

ロン・バレット 絵 時間：3分

動物に服を着せてはいけません。なぜって？ほら、こんなふうに不都合なことがいっぱいあるでしょう。

ハリネズミが服を着たら、など具体的に描かれていますので、納得しながら楽しめます。

ラストは大人もクスッと笑えるでしょう。



『とべ！ちいさいプロペラき』

福音館書店 2000年 Eヤ

小風さち 文

山本忠敬 絵 時間：6分

小さくて赤いプロペラ機。いよいよ初めて空を飛ぶ日がやってきました。

絵がとてもすばらしいです。エンジンの音は飛び立つ感じが出るように工夫して読んでみてください。



『どろぼう だっそう だいさくせん！』

偕成社 2007年 E二

穂高順也 作

西村敏雄 絵 時間：7分

なんとか牢屋からにげだそうと、3人はシマウマとトラに変装しますが…。

もとのもくあみ、という気軽に楽しめるおはなし。



『なりました』

鈴木出版 2004年 Eヤ

内田麟太郎 作

山口マオ 絵 時間：2分

カバがにおいをかぐと…。かめがてつぼうをす
ると…。あれあれ、変身しちゃったぞ！

短いおはなし。雰囲気を変えたいときや、ちょ
っと時間があまったときに。



『ねえとうさん』

小学館 2001年 Eサ

佐野洋子 作 時間：4分

ひさしぶりに帰ってきたとうさんとくまの子は
散歩にでかけます。交わす言葉や行動に、お父
さんが帰ってきたことを実感しているくまの子の
よろこびが伝わってきます。

お父さんを通して人（クマ）としてのありよう
を子どもが感じているので、高学年でも読めるか
もしれません。



『のろまなローラー』

福音館書店 1980年 Eヤ

小出正吾 作

山本忠敬 絵 時間：6分

ローラーが重いくるまをごろごろしながら道
をなおしていると、ぶっぶーとトラックや自動
車が追い越していきました。ところが、途中で
みんなパンクしています。ローラーくんを追い
越したのでまだ道がでこぼこだったのです。

人に笑われても、地道にこつこつ生きることの
大切さを感じさせる絵本です。



『はい、このひとがママです！』

文化出版局 1992年 EK

ダイアン・グッド 作 時間：4分

駅でママとはぐれちゃった！わたしたちママに
会えるの？

絵がとてもおしゃれです。子どもたちにとって
ママがどんな存在かが伝わってくるおはなし。



『歯がぬけた』

PHP研究所 2002年 Eオ

中川ひろたか 作

大島妙子 絵 時間：5分

ごはんを食べているときに歯がぬけた。お母さんが子どもの頃は、歯がぬけると縁の下に捨てたんだって。

だれもが経験する歯がぬけるということを、風習も取り入れて描いた楽しいおはなしです。



『バルバルさん』

福音館書店 2008年 E二

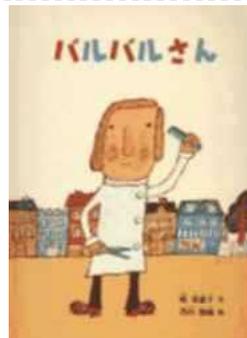
乾栄里子 作

時間：7分

西村敏雄 絵

とこやのバルバルさんのところに、ライオン、ヒツジなど、今日はおかしなおきゃくさんがやってきます。

動物たちの気に入る姿に仕上げるバルバルさんは、腕のいいとこやさんですね。のんびり楽しいおはなし。



『ハンダのびっくりプレゼント』

光村教育図書 2006年 Eフ

アイリーン・ブラウン作 時間：3分

ハンダは7つのくだものを届けるために、友だちのアケヨはなにがいちばんすきかな？って考えながら出かけました。でも、アケヨのところに着いたときには、かごの中がすっかり変わっていました！

アフリカの民族衣装や髪型も色鮮やかな楽しいおはなしです。



『ピン・ボン・バス』

偕成社 1996年 Eス

竹下文子 作

鈴木まもる 絵 時間：5分

バスは街の駅前から、山のむこうの終点まで走ります。子どももお年よりもいろいろな人が乗って降りていきます。

運転手さんは言葉は少ないけれど、この仕事が好きなんだなあ、ということが伝わってきます。



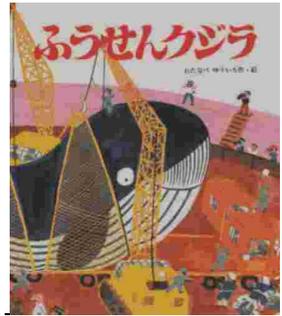
『ふうせんクジラ』

佼成出版社 1989年 Eワ

わたなべゆういち 作 時間：5分

クジラのボンは海までとんできた風船を次々ぱくり。するとあららっ！ボンは空に浮かび上がってしまいました。

ボンが空から見ている風景がよく描かれています。中ほど、ボンがサッカー場に落ちてくるどころページが縦になります。



『ぼくのかわいくないもうと』

ポプラ社 2005年 E八

浜田桂子 作 時間：4分

ぼくにはひとつ下のすっごいおしゃべりで、すっごいでしゃべりの妹がいる。妹のおかげで、ぼくはいやな思いをたくさんしてる。もういやだ！でも、ある日、妹がおたふくかぜにかかった。

兄妹の気持ちをよくとらえているおはなし。



『ぼくびょうきじゃないよ』

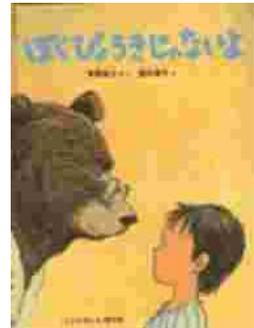
福音館書店 1994年 Eタ

角野栄子 作

垂石眞子 絵 時間：11分

ケンは何日釣りに行くのをとても楽しみにしています。でも…ごほん、ごほん。ベッドで寝ていると、くまのおいしゃさんがやってきた。くまの先生、ぼく明日釣りに行ける？

くましきうがいや、くましきねつさましなど、くませんせいの治療が楽しいおはなしです。



『ほね、ほね、きょうりゅうのほね』

イタ・ミュージック・ボックス 1998年 E八

バイロン・パートン 作 時間：3分

「ほね、ほね、きょうりゅうのほねはないか。」見つけたほねを順序よくならべたら、ティラノサウルスのできあがり！

大好きな恐竜の骨を探してみたくなるおはなし。最後のページ、たくさんの恐竜の名前を読む場合は、文章の前に読むほうがいいでしょう。



『まっくろネリノ』

偕成社 1973年 Eカ

ヘルガ＝ガルラー 作 時間：4分

ぼくはまっくろ。だから、きれいな色の兄さんたちは、ぼくと遊んでくれない。ぼくはひとりぼっちで悲しかった。でも、たいへん、兄さんたちがいなくなっちゃった！

自分を他の人や自分自身が認めることの喜びが伝わってきます。



『まゆとおに やまんばのむすめまゆのおはなし』

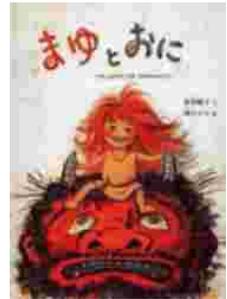
福音館書店 2004年 Eフ

富安陽子 作

降矢なな 絵 時間：10分

まゆはやまんばのお母さんと暮らしています。ある日、まゆは鬼に出会います。鬼を知らないまゆは、食べられようとしていることに気づかず、鬼についていきますが…。

力持ちのまゆの豪快さとかわいらしさがよく描かれていて楽しいおはなしです。節分の時期に読んであげてください。



『まゆとりゅう やまんばのむすめまゆのおはなし』

福音館書店 2008年 Eフ

富安陽子 作

降矢なな 絵 時間：9分

まだ冷たい春の朝にやってきたお客さま、りゅうの背にのって、まゆとやまんばかあさんは大事な仕事に出かけました。

春のおとずれを描いたやまんばのむすめまゆのおはなし。自然の雄大さや不思議を感じます。



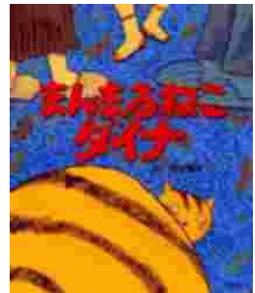
『まんまるねこダイナ』

小学館 2005年 E二

西村香英 作 時間：6分

ねこのダイナはみんなにかわいがられて、えさをたっぷりもらってまんまるに。初めて外に出たダイナは家に戻れるでしょうか。

タヌキやスイカに間違われるほどまんまるのダイナがかわいく、愛される幸せが伝わってきます。

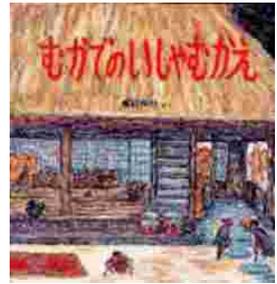


『むかでのいしゃむかえ』

福音館書店 1998年 Eイ
飯野和好 作 時間：4分

むかーし、虫たちが集まっていると、ばったが腹痛をおこしました。虫たちは話し合い、足が速そうなムカデに医者を呼びに行ってもらうことにしたのです。

結末が楽しい、短いおはなし。



『めっきらもっきらどおんどん』

福音館書店 1990年 Eフ
長谷川摂子 文
降矢なな 絵 時間：7分

一緒に遊ぶ友だちがいなくて、かたがめちやくちな歌を歌うと、風によって奇妙な声がかきえてきたよ…。

一緒に遊んだおばけの名前や呪文がリズム感があって楽しい夏のおはなし。真ん中と終わりの方に絵が縦になるページがあります。



『やまこえのこえかわこえて』

福音館書店 2001年 Eコ
こいでやすこ 作 時間：5分

「こわくない、こわくない」とおまじないを唱えて、きつねのきっこは月夜の晩に出かけます。

秋のおはなし。大評判のきっこのおいなりさんは、どんな味なのでしょうね。

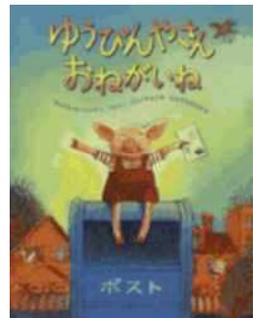


『ゆうびんやさんおねがいね』

徳間書店 2007年 Eコ
サンドラ・ホーニング 文
バレリー・ゴルバチョフ 絵 時間：10分

遠くに住んでいるおばあちゃんの誕生日に、コブタクくんは、おばあちゃんが一番好きな「ぎゅう」を贈ることにして郵便やさんに頼みました。

おばあちゃんに「ぎゅう」が届くまでに関わったみんなが幸せになれる、あたたかいおはなし。



『ゆき』

あすなろ書房 1998年 Eシ
ユリ・シュルヴィッツ 作 時間：4分

「ゆきがふってるよ」男の子が言います。でも大人たちは「すぐやむさ」と言い、ラジオもテレビも「ゆきはふらないでしょう」と言っています。

静かに降り続ける雪にはしゃぐ男の子の楽しい気持ちが、美しい絵で表され冷たさと暖かさを感じられる絵本。



『ゆらゆらばしのうえで』

福音館書店 2003年 E八
木村裕一 文

はたこうしろう 絵 時間：7分

1匹のうさぎが丸太の橋にかけこんで、後を追ってたきつねも橋の上にとびのった。ところが橋は土手からはずれ、2匹が動くたびシーソーのようにゆれる。身動きできない2匹は…。

ハラハラドキドキ、時々くすっと笑えるおはなし。

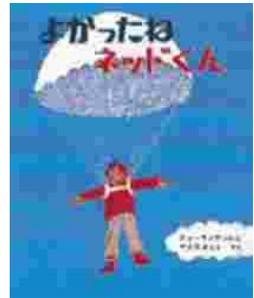


『よかったねネッドくん』

偕成社 1996年 Eシ
チャーリップ 作 時間：4分

ネッドくんのところへ、遠いいなかからびっくりパーティーの招待状が届きました。さっそく出かけるネッドくに次々とアクシデントが起こります。

白黒とカラーのページが交互になっています。ネッドくんがどうなるか、ハラハラドキドキ、最後によかった！と安心できるおはなしです。



『ろくべえまってるよ』

文研出版 2005年 Eチ
灰谷健次郎 文

長新太 絵 時間：7分

深くて暗い穴の中に落ちた犬のろくべえを見つけた、えいじくんたち1年生。高学年はまだ学校だし、おとなはあてにならない。1年生たちはろくべえを救出できるでしょうか。

関西弁のようなセリフが難しいかもしれませんが。途中4か所ほど絵が縦になるので見せ方に注意しましょう。



おはなし（物語）のえほん

～中学年向き～

『アイウエ王とカキクケ公』

童心社 1982年 Eミ

武井武雄 原案

三芳悌吉 文・絵 時間：8分

アイウエ王国のやさしい王様を、カキクケ公国のよくふかい公爵がつかまえて、タチツテ塔にとじこめました。

アイウエオから始まってワイウエヲ（オ）で終わるおはなし。ことばとおはなしを楽しめます。



『あかねこくん』

フレーベル館 2001年 Eハ

エリック・バテュ 作 時間：6分

赤いネコ、「あかねこくん」が、見つけたたまごを食べようとしますが、小鳥になってからのほうがいいと思い、育てることにしました…。

やさしい気持ちになれる、ねこと小鳥の友情物語。



『あげたおはなし』

自由国民社 2005年 Eア

中山千夏 文

安西水丸 絵 時間：5分

ことば絵本。手をあげた、テンプラをあげた、いろいろな「あげた」をつなげたおはなし。

リズムよく読んでみてください。



『あめふりのおおさわぎ』

評論社 2002年 Eシ

デイビッド・シャノン 作 時間：9分

土曜日の朝、雨が降り出すとみんながケンカをはじめた。とにかくいろんな人たちが文句を言ったりケンカをしたり。でも晴れたとたんにみんなきげんがよくなっちゃった。

雨が続く時期にぴったりのおはなし。



『いかりのギョーザ』

佼成出版社 2006年 Eオ

荻田澄子 作

大島妙子 絵 時間：10分

ブブコさんはフライパンを見つけました。火を使わなくてもギョーザが焼けるフライパン。どうやって焼けるのでしょうか。

フライパンが話す関西弁も楽しく読んでください。



『いすがにげた』

ポプラ社 2005年 Eス

森山京 作

スズキコージ 絵 時間：10分

おばあさんの古いイスが逃げ出しました。やっとイスをつかまえたおばあさんは、イスに思い出話を始めます。イスを自由にさせてあげることにしたおばあさん。イスはどこに向かったのでしょうか。

つくも神っているのかもしれない、と感じるおはなしです。



『いのちのまつり つながってる!』

サンマーク出版 2007年 Eハ

草場一寿 作

平安座資尚 絵 時間：6分

ミズちゃんの家で、犬の赤ちゃんが生まれました。見るとお母さん犬と子犬のおなかにひものようなものがくっついていきます。ミズちゃんのお母さんが「ハその緒」だって教えてくれました。

終盤に折りたたみのページがあります。ちょっと開きにくいですが、たくさんの命のつながりを見たら、きつとなにかを感じ取ってくれるのではないのでしょうか。



『いろはにほへと』

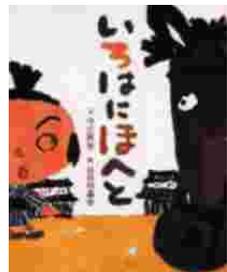
BL出版 2004年 Eハ

今江祥智 文

長谷川義史 絵 時間：12分

むかしむかし、まだおさむらいがいたころ。初めて字を習ったかっちゃんは、忘れないように「いろはにほへと…」をくりかえしながら歩いていると、おさむらいさんにぶつかってしまいました。

いろはにほへとが国の平和を守った…? のんびり楽しいおはなし。



『うえにはなあに したにはなあに』

福音館書店 2008年 Eハ

ローラ・M・シェファー 作

バーバラ・バッシュ 絵 時間：6分

もしもぐらだったら、うえには何が見える？
くじらだったら、したには何が見える？うえへ
うえへ、したへしたへ、それぞれの場所から見
えるものをたどる絵本。

本はずっと縦にめくりますが、初めから月のページ
までは上へ、月から最後までは下へと本の向きが変わります。



『ウェン王子とトラ』

徳間書店 2007年 Eシ

チェン・ジャンホン 作・絵 時間：11分

子どもを殺され人間を憎み、村を襲うトラを
鎮めるため、王はわが子ウェン王子をトラにあ
ずけます。トラはわが子のように王子を育てま
すが、王子を失ったことに堪えきれなくなった
王は兵をあげ、トラを追いつめます。

迫力のある絵と、内容が合っていて、心に響くおはなしです。。



『うごいちゃだめ！』

アスラン書房 1996年 Eシ

エリカ・シルヴァマン 文

S. D. シンドラー 絵 時間：13分

アヒルとガチョウが「動いたら負け競争」を始
めた。なにがあってもがんばって動かない2匹。そ
こへキツネがやってきて…。

いつまで動かないんだろう、キツネに食べられ
ちゃうよー！ハラハラドキドキ楽しいおはなし。



『おおきな木がほしい』

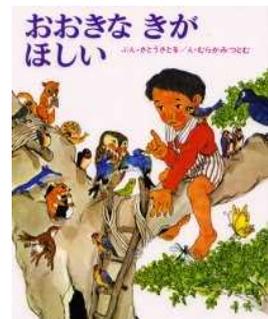
偕成社 1978年 Eム

佐藤さとる 文

村上勉 絵 時間：16分

かおるは大きな木があるといいなあと、考えてい
ます。本当にそんな木があったら、木の上にかおる
の家を作るのです。

途中絵が縦になります。最後に見返しのかおるの
木の全体像を見せてあげるといいと思います。15
分くらいかかる長いおはなし。



『鬼の首引き』

福音館書店 2006年 Eイ

岩城範枝 文

井上洋介 絵 時間：9分

力持ちの若者は、旅の途中で鬼につかまり、鬼は若者を娘のお食い初めにしようとします。力くらべで娘が負けそうになると、鬼は仲間の鬼に加勢を頼み、首引きで勝負します。

狂言「首引き」を基に作ったおはなし。



『おばけリンゴ』

福音館書店 1978年 Eヤ

ヤーノシュ 作 時間：12分

ワルターさんは、今まで一度も花も実もつけたことがないリンゴの木に、「たった一つでもいいから実がなりますように」と一生懸命祈りました。すると花が一つ咲きました。

やっとう実がなったリンゴが大きくなりすぎたり、秘密警察やドラゴンが出てきたり、ちょっとナンセンスも盛り込まれたおはなし。



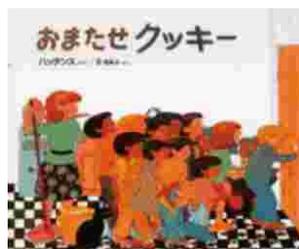
『おまたせクッキー』

偕成社 1987年 Eハ

パット・ハッチンス 作 時間：6分

おやつクッキーを食べようとする、玄関のベルがなり、友だちが遊びにきました。また食べようとする、ベルがなり、次々に友だちが増えていって…。

友だちが増えるたびに、分け前が減っていくクッキーをみつめる、子ども達の表情が楽しい絵本。



『おんちのイゴール』

小峰書店 2006年 Eキ

きたむらさとし 作 時間：9分

鳥のイゴールは音楽が大好き。でもみんなからはオンチとよばれ傷ついたイゴールは、だれもいないところに行きます。

自分らしさを見つけるおはなし。

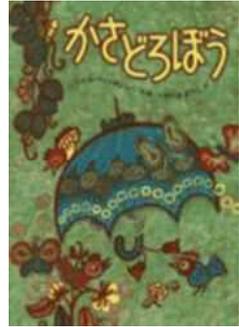


『かさどろぼう』

徳間書店 2007年 Eウ
シビル・ウェッタシンハ 作 時間：12分

かさがない村に育ったキリ・ママおじさんは、初めて町に行き、かさを買いました。ところが帰途中でかさを盗まれてしまいます。何度もかさをぬすまれたおじさんは、どろぼうの正体をつきとめようとしてます。

スリランカの作家によるのんびり楽しいおはなし。



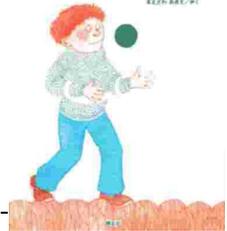
『かぜがふいたら』

朔北社 1999年 Eナ
ルース・パーク 文
デボラ・ナイランド 絵 時間：8分

ページをめくるごとにおかしさを増していくジョシュの顔とどこかとぼけた表情のとなりの犬や家族たち。

おはなしのおもしろさはもちろん、絵のおもしろさじっくり味わってほしい絵本。

かぜがふいたら



『かぜひきたまご』

講談社 2001年 Eス
舟崎克彦 文
杉浦範茂 絵 時間：8分

ぼくがひろった、不思議なたまご。困ったことがあると、身代わりになってくれるんだ。なんてすてきなたまご！でも、たまごが大きくなってきたよ！

不思議で、おもしろいおはなし。

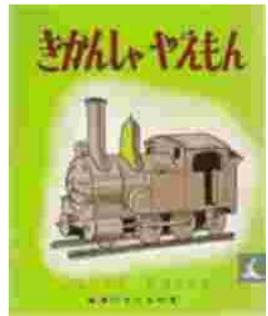


『きかんしゃやえもん』

岩波書店 1959年 Eオ
阿川弘之 文
岡部冬彦 絵 時間：14分

機関車のやえもんは、年をとってだいぶくたびれてきました。レールバスや、電車にもバカにされ、近頃はいつもおこっています。ある日、やえもんがはきだした火の子が稲むらにかかってしまいました…。

やえもんが煙を吐きながら走っているのがわかるように、「しゃあ」「しゃっ、しゃっ、しゃくだ」などは工夫して読んでみてください。



『きつねのホイティ』

福音館書店 1959年 Eオ

シビル・ウェッタシンハ 作 時間：13分

スリランカの小さな村、おなかをすかせたきつねのホイティは、村にすむアンゴウさんの家を人間の姿をして訪ねました。途中できつねだとわかって、アンゴウさんは親切に食べ物をわけてあげたのですが…。



だましたつもりがだまされていた、賢い奥さんたちとホイティのやりとりが楽しいおはなしです。

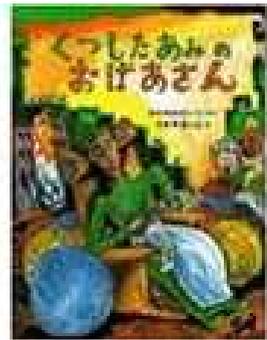
『くつしたあみのおばあさん』

PHP研究所 1995年 Eス

おそのえいこ 作

スズキコージ 絵 時間：12分

おばあさんは、くつしたを編むのがとても上手で、1年に1度、12月24日だけくつしたを売ります。クリスマスイブの夜、男の子が片方だけ買っていったくつしたをベッドにつるして眠ると、翌朝、くつしたに黒いネコが入っていました。



おばあさんの硬くなっていた心が、クリスマスの奇跡でほぐれていくおはなし。

『けんかのきもち』

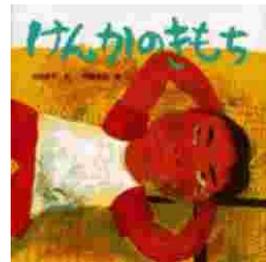
ポプラ社 2001年 Eイ

柴田愛子 文

伊藤秀男 絵 時間：5分

だいは、一番のなかよしのこうたとケンカした。くやしくて、泣きながら家に帰ったのですが…。

男どうしの友情を力強い絵とともに描いたおはなし。



『ざぼんじいさんのかきのき』

岩崎書店 2000年 Eオ

すとうあさえ 文

織茂恭子 絵 時間：10分

ざぼんじいさんは、いつもあま〜い柿をひとりじめ。ある日、ざぼんじいさんのとなりに、まあばあさんが引っ越してきました。

おはなしも楽しいし、柿のはっぱや枝の使い方、遊び方もわかります。



『舌ながばあさん』

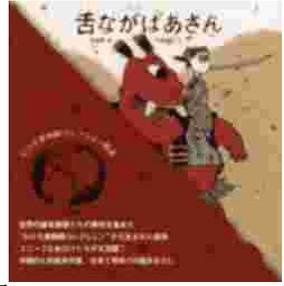
小学館 2001年 Eフ

千葉幹夫 文

武建華 絵 時間：13分

お化けの舌ながばあさんと朱のぼんは、人間を驚かせようと村まで下りていきます。ところが、村人が森の木を全部切ってしまったために、村は大変なことになっていました。

お化けが人間のために活躍してくれる楽しい中国のおはなし。環境についても考えさせられるかもしれません。



『しっぽのきらいなねこ』

福音館書店 2005年 Eイ

南部和也 文

いまきみち 絵 時間：6分

じぶんがまっくろだということをじまんに思っていたのに、しっぽがだんだん黄色くなってきました。くろねこは黄色いしっぽが気に入りません。

自分のことを好きになれるおはなし。



『しゃっくりがいつ』

セーラー出版 2004年 Eシ

マージェリー・カイラー 作

S. D. シンドラー 絵 時間：5分

がいこつのしゃっくりは、ほねはきしんで、歯がちがちいて、おなかはやじれてもう大変。ヒックヒックヒック。どうしたらがいこつのしゃっくりはとまるのかな。

大笑いできるおはなし。



『しょうぼう馬のマックス』

岩波書店 1998年 Eア

サラ・ロンドン 作

アン・アーノルド 絵 時間：15分

レヴじいさんのところで荷車を引く仕事をするようになったのですが、しょうぼう馬だったマックスは、火事を知らせる鐘が鳴ると、火事場に向かって走り出してしまいます。どうしたらマックスは新しい仕事をするようになるのでしょうか。

水彩で描かれた町の様子も美しい絵本です。



『せいくんとねこ』

ポプラ社 2006年 Eチ

矢崎節夫 作

長新太 絵 時間：7分

さかなをねらっているとりのねこに、「ぼくのさかなだよ！」ってせいくんが言ったら、ねこが「せいくんに食べられるより、ねこに食べられたほうがしあわせだよ」って言う。ほんとかな…。

なるほどねえ、と思わせる二人のやりとりが楽しいおはなし。



『せかいでいちばんつよいくに』

光村教育図書 2005年 Eマ

デビッド・マッキー 作 時間：7分

世界中の人々を幸せにするために、世界を征服した、ある大きな国の大統領。

強者の歪んだ論理をユーモアと皮肉を交えて描いた寓話絵本。



『それでいいのだ！』

評論社 1979年 Eス

ジェイムズ・スティーブンソン 作

時間：7分

おじいちゃんの家はいつもおんなじ。おじいちゃんもおんなじことしか言わない。「それでいいのだ」。でもある朝おじいちゃんが、いつもと違うことを話し始めました。

コマ割りのページもあるので、少人数の時から、近くに集まってもらって読むといいでしょう。



『それはすばらしいなつのあるひ』

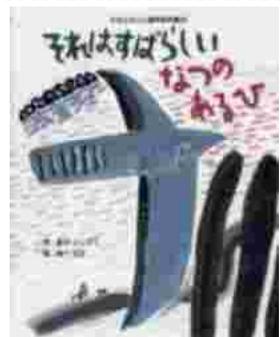
ひかりのくに 2002年 Eア

新沢としひこ 詩

あべ弘士 絵 時間：4分

トンボとり、さかな釣り…。おひさまのひかりが、みどりののはっぱがわらってた、すばらしい夏のある日。

詩の絵本。詩の世界が鮮やかに浮かんでくるような絵です。



『ダチョウだってとびたいんだ!』

評論社 1997年 Eフ

ケン・ブラウン 文・絵 時間：5分

ダチョウがスズメにたずねます。「どうしてぼくはとべないんだろう」。なんとかして飛んでみようとするのですが、うまくいきません。ところがついにダチョウは空を飛んだのです!

楽しいおはなしの中から、挑戦すること、そして夢がかなうことの喜びが伝わってきます。



『ちいさいおうち』

岩波書店 1979年 E八

バーシニア・リー・バートン 作

時間：17分

りんごの木とひなぎくに囲まれて立つちいさなおうちは幸せでした。しかし、長い間にちいさなおうちのまわりの様子はどんどん変わっていきます。

文明の進歩と、それによって見失ったものを静かに問いかけます。通常カタカナ表記されることばもひらがなで書いてあり、文章もデザイン化されて、言葉の途中で行が変わっているところがあります。



『月夜のみみずく』

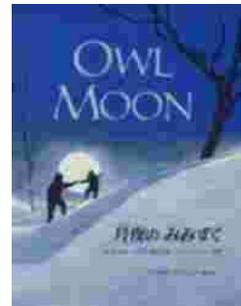
偕成社 1989年 Eシ

ジェイン・ヨーレン 詩

ジョン・ショーエンハール 絵 時間：11分

冬の夜ふけ。とうさんとわたし、みみずくにあいでかけたの。こうやってでかける夜を、ずっとずっとまってたの。

少女の胸の高鳴りと、大自然との交歓をみごとに描く詩の絵本。



『どうするどうするあなのなか』

福音館書店 2008年 Eタ

きむらゆういち 文

高畠純 絵 時間：9分

のねずみ3匹と、追いかけてきたやまねこ2匹はそろって深いあなに落ちてしまいました。5匹はあなから脱出する方法を相談しますが、お互いを信じられず、まとまりません。そのうち雨がふってきて…。

おはなし(絵)は、最初から終わりまで、本を縦にして読むようになっています。



『どうぶつさいばん ライオンのしごと』

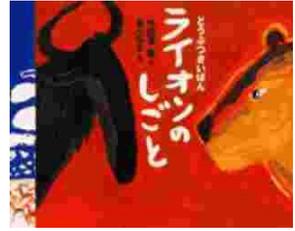
偕成社 2004年 Eア

竹田津実 文

あべ弘士 絵 時間：13分

タンザニアの草原で裁判が始まります。訴えたのは母親を殺されたヌー、被告人はメスのライオンです…。

食物連鎖には、病気が動物に蔓延しない役目もあるそうです。いのちをつなぐための自然界のしくみがわかるおはなし。



『としょかんライオン』

岩崎書店 2007年 Eホ

ミシェル・ヌードセン 作

ケビン・ホークス 絵 時間：18分

ある日、図書館に大きなライオンがやってきました。ライオンだってきまりを守れるのなら、図書館に来ていいのです。

館長さん、図書館員や子どもたちと仲良くなっていくライオン。ほんとうにいたらいいですね。



『ともだちからともだちへ』

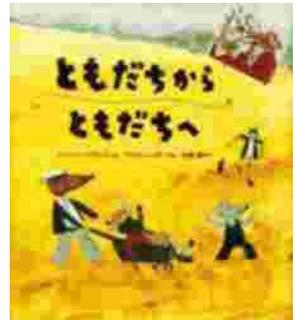
理論社 2003年 Eヒ

アンソニー・フランス 作

ティファニー・ピーク 絵 時間：15分

元気がないクマネズミのところに差出人が書いてない手紙が届きました。自分にステキな手紙を送ってくれた人を探すため、クマネズミは心当たりをたずねるのですが…。

クマネズミに手紙を出したのは誰だったんでしょうね。本当の友だちの意味を考えます。



『どんぐりとやまねこ』

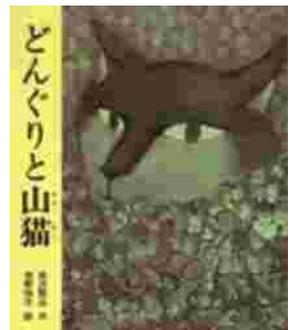
偕成社 1989年 Eタ

宮沢賢治 作

高野玲子 絵 時間：24分

一郎におかしなハガキが届きました。一郎がかけてみると、どのどんぐりが一番えらいか決める裁判が開かれていました。

少し難しい言い回しもありますが、秋の美しい風景が目に見えてきます。20分以上かかりますが、何回かに分けて読むなどしてはどうでしょうか。



『とんだトロップ』

福音館書店 1998年 Eオ
小野かおる 文・絵 時間：10分

トロップは、お祭りのジャンプきょうそうで優勝したくて、いっしょうけんめい練習をしています。すると頭の上のほうから不思議な声が聞こえてきました…。

『ちいさなりょうしタギカーク』という本の最後の場面で似た遊びをしています。違うおはなしに共通しているものを見つけることも楽しいものです。



『どんなかんじかなあ』

自由国民社 2005年 Eワ
中山千夏 文
和田誠 絵 時間：6分

目の見えない友だち、耳が聞こえない友だち。ぼくは「どんなかんじかなあ」って考えてみる…。

人の立場や状況を考えることは難しいけれど、大切なことです。福祉の勉強のときも使えると思います。



『にぐるまひいて』

ほるぶ出版 1980年 Eク
ドナルド・ホール 文
バーバラ・クーニー 絵 時間：9分

家族全員が1年かけて作ったものを荷車に積んで、父さんは町の市場に出かけます。売った品物の代金で、必要なものを買ひ、また新しい1年の生活が始まります。

自然のサイクルの中での生活が、静かに描かれる絵本。



『ぬ〜くぬく』

農文協 2007年 Eヤ
飯野和好 作
山本孝 絵 時間：9分

お寺の縁側で、干しだいこんと干しいもが話をしています。そこへおしょうさんと、娘のちかちゃんが畑から帰ってきました。

「みんながよろこんで食べてくれりゃあ、それでええん」ということばに食べものへの感謝を感じます。



『はいいろねずみのフレイシエ』

文溪堂 2007年 Eミ

アンケ・デ・フリース 作

ウィレミーン・ミン 絵 時間：5分

フレイシエはとっても悲しい気もちです。それは、体の色がくらーい灰色だから。そこでほかの色にぬりかえてみるのですが…。

フレイシエは、ほんとうにからだの色のせいで悲しい気もちだったのでしょか。自分探しのおはなしといえる内容なので、どの学年でも使えると思います。



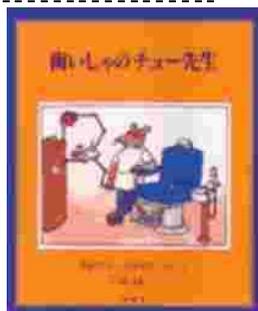
『歯いしゃのチュー先生』

評論社 1991年 Eス

ウィリアム・スタイグ 作 時間：13分

チュー先生はとても腕のいい歯医者です。いろんな動物たちを治療しますが、ネコなど危険な動物はおことわりです。でも、ある日、ほっぺを包帯で巻いたキツネがやってきました…。

楽しいおはなし。歯の衛生週間に向けて。



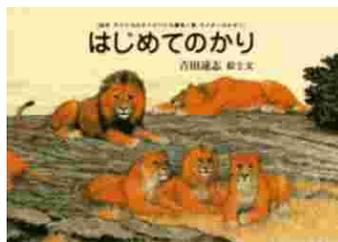
『はじめてのかり』

リブリオ出版 2001年 Eヨ

吉田遠志 作 時間：10分

ライオンのきょうだい3匹だけで狩りに出かけ、アフリカのサバンナにすむいろいろな動物たちに出会います。

横長の本なのでページをめくるのがちょっと大変ですが、美しい絵の中に自然の雄大さや厳しさなども盛り込まれています。



『はらぺこガズラー』

ほるぶ出版 1979年 Eヒ

ハアコン・ビョルクリット 作 時間：12分

1ぴきのネコがいました。名前はガツガツ・ガズラー。食べても食べてもおなかがすいていくガズラーは、だんなさんとおかみさん、ぶたなど次々に食べてしまいます。

食べてどんどん大きくなっていくガズラーが、ちょっとこわくて、でも楽しいおはなしです。



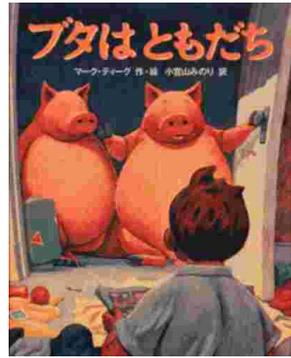
『ブタはともだち』

徳間書店 1998年 Eテ

マーク・ティグ 作・絵 時間：6分

ウェンデルの部屋はきたないなんてもんじゃ
ない。ママは、「あんまり汚いとブタ小屋になる
わよ！」というけど、そうじするなんて、めん
どくさくって。そんなある日、ウェンデルの部
屋に本物のブタがあらわれて…。

「部屋をかたづけなさい！」と言われたこと
のある子どもにも、言ったことのある大人にも
ぜひ読んでほしい1冊。



『ふつうに学校に行くふつうの日』

小峰書店 2005年 Eキ

コリン・マクノートン 文

きたむらさとし 絵 時間：9分

ふつうの男の子がいつものようにふつうに学校へ行
くと、教室にふつうじゃない先生が入ってきました…。

おはなしを読み進めていくと、ページがどどん色
づいてくる理由がわかります。最初と最後の見返しも
見せてあげてください。



『へいきへいき』

講談社 2005年 Eタ

内田麟太郎 文

竹内通雅 絵 時間：8分

自分が強いことを証明しようと、オオカミは子分
のイタチを連れて山の中へ…。そこにはおそろしい
「き」がはえているというのです。ねいき、みずか
きなど「き」が最後につくものが登場します。最後
に2匹が逃げ込んだ家は…？

楽しいおはなし。



『へそのお』

PHP研究所 2004年 Eイ

中川ひろたか 文

石井聖岳 絵 時間：6分

お母さんが、ぼくのへそのおを見せてくれた。それ
からお父さんとお母さんが、おへそとおへそのおにまつ
わるはなしをしてくれた。

おへそに関する風習、医学的なことも少しわかる、
いのちのつながりを感じられるおはなし。



『ホウキさんとメガネさん』

評論社 2004年 Eシ

ハンスペーター・シュミット 作 時間：4分

子どもたちがホウキをもった雪だるまと、めがねをかけた雪だるまを作りました。子どもたちが帰ったあと、ホウキさんとメガネさんは、どちらがりっぱかで大ゲンカを始めます。翌朝ただの雪だるまになった2人を、子どもたちがなおしてくれませんが…本当に元どおり？

楽しいおはなし。最後のページは特に絵をよく見せてあげてください。



『ボートがしずんだの、だれのせい？』

あすなろ書房 1997年 Eア

パメラ・アレン 作 時間：5分

海の近くの牧場に住むめうし、ロバ、ヒツジ、ぶた、ネズミは大のなかよし。5匹はボートで海に漕ぎ出そうとしましたが、みごとに転覆。ボートが沈んだのだれのせい？

ユーモラスに描かれた動物たちの楽しいおはなし。



『ボールのまじゅつしウィリー』

評論社 1998年 Eフ

アンソニー・ブラウン 作 時間：9分

ウィリーはサッカーが大好きだけど、サッカーシューズも持っていないし、今まで選手に選ばれたこともありません。ある日の練習の帰り道、ウィリーは不思議な男の子と出会います。

家族が一度も描かれていないことから、ウィリーは家庭的に幸せな環境ではないのかもしれませんが。でも、居場所をみつけたウィリーはきっと幸せですね。



『ぼくのひよこ』

農文協 1998年 Eタ

高部晴市 作 時間：5分

夜店で買ったヒヨコが、次の朝オンドリとメンドリになっていた！

ちょっと不思議なおはなし。ふきだしの部分は読んだほうがいいところと、読まなくてもいいところがあります。読み方を工夫してみてください。



『ぼくは孫』

岩崎書店 2007年 E二

板橋雅弘 作

西村敏雄 絵 時間：5分

ぼくはおじいちゃんとおばあちゃんのうちに泊まることになった。おじいちゃんとおばあちゃんは、やさしくて楽しくて大好き。でも、どうしてこんなにやさしいんだろう…。

おじいちゃん、おばあちゃんと孫との交流を描いたあたたかいおはなし。



『まじめなフレッドおじさん』

ソニー・マガジンス 2005年 Eイ

ティム・イーガン 作 時間：10分

農場のフレッドおじさんは、とても真面目。笑ったところを見たことがありません。牛のエドナたち農場の仲間フレッドおじさんを笑わせようといういろいろやってみるのですが…。

みんなのいかにも真面目そうな表情も楽しいおはなしです。



『やかましい!』

フレーベル館 2008年 Eタ

アン・マクガバン 文

シムズ・タバック 絵 時間：10分

古い家に住むおじいさんは、家のいろいろな音が気になって眠れません。そこで、ものしりの博士のところへ相談に行くと…。

似たおはなしに『きつきぎゅうぎゅう』(ほるぷ出版)があります。



『ロバのシルベスターとまほうの小石』

岩崎書店 1975年 Eス

ウィリアム・スタイク 作 時間：16分

ある雨の日、ロバのシルベスターはのぞみがかなう、魔法の小石を見つけ、大よろこびで家に帰ります。ところが、その途中、ライオンに出会ってしまい…。

岩になってしまったシルベスターが希望を失い、心を閉ざしていく様子が描かれています。最後の奇跡的な出来事でほっとできる絵本。



おはなし（物語）のえほん

～高学年向き～

『あしなが』 講談社 1999年 Eア
あきやまただし 作 時間：5分

のらいぬケンの住む町に、スラリとしたカッコイイ犬がやってきた。仲間ののらいぬたちは口々にそいつ「あしなが」のことをうわさし始めた。

仲間になろうと声をかけられたあしながが言った「ぼくにもすてきな名前があったんだね」がころを軽く、明るくしてくれます。



『あたまにつまった石ころが』

光村教育図書 2002年 Eス
キャロル・オーティス・ハースト 文
ジェイムズ・スティーブンソン 絵

時間：10分

父の趣味は、石を集めること。まわりの人たちは言いました。「あいつは、ポケットにもあたまのなかにも石ころがつまっているのさ」。

まわりには理解されなくても、自分の好きなことをつきつめていくことの大切さを教えてくれるおはなし。

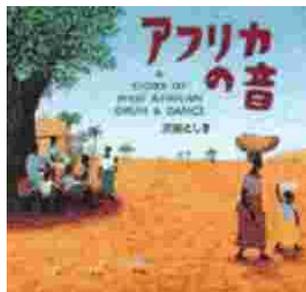


『アフリカの音』

講談社 1996年 Eサ
沢田としき 作 時間：4分

アフリカの大地に、どこからかタイコの音が聞こえてくる…。それはいのちの音。

ずうっと昔から変わることのない自然。命の尊さ、人間はこの世に生きるものの一部であること。様々なことを考えさせてくれる絵本です。



『アンナの赤いオーバー』

評論社 1990年 Eロ
ハリエット・シーフェルト 文
アニタ・ローベル 絵 時間：7分

戦争が終わったら、アンナは新しいオーバーを買ってもらうことになっていました。戦争は終わりました。でもお店はからっぽです。オーバーも、食べ物もなんにもありません。アンナのオーバーを手に入れるために、お母さんは…。

母の愛を感じる、色鮮やかな絵本。



『ウェズレーの国』

あすなろ書房 1999年 Eホ
ポール・フライシュマン 作
ケビン・ホークス 絵 時間：7分

ウェズレーは、夏休みの自由研究に、「文明」をつくりだした。自分だけの作物を育て、自分だけの服を作り、自分だけの遊びを考え出し、自分だけの文字まで発明する…。

仲間はずれにされていた少年が、「自分だけの文明」を作り出すという壮大な物語。



『エゾオオカミ物語』

小学館 2008年 Eア
あべ弘士 作 時間：4分

それは、たった100年ほど前のこと。絶滅してしまったエゾオオカミと人間の歴史をシマフクロウが静かに語ります。

動物絵本の第一人者が、迫力ある絵で描く静かな物語。

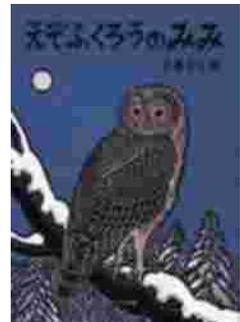


『えぞふくろうのみみ』

リブリオ出版 2001年 Eテ
手島圭三郎 作 時間：5分

えぞふくろうは、北海道の深い山の中で子育てをします。厳しい北の自然の中で生きる、えぞふくろうの1年。

北海道に生息するえぞふくろう。ヒナから大人に成長し、ひとりで厳しい自然の中で生きていく姿を美しい版画で描きます。



『おおきな木』

篠崎書林 1976年 Eシ
シェル・シルヴァスタイン 作 時間：9分

むかし、りんごの木があって、かわいいいちびっことなかよしでした。年月がたって、りんごの木はきり株だけになりました。そこへ年老いた男がまたやってきます。

無償の愛、年を重ねることを静かに語ります。



『大きな木のおくりもの』

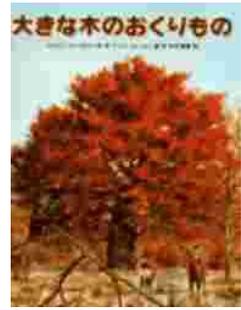
あすなろ書房 1996年 Eソ

アルビン・トレッセルト 作

アンリ・ソレンセン 絵 時間：8分

一本の木の生、死。そして、新しいいのちの誕生。

一本の木が自然界のサイクルの中で果たす役割を見事に描いた絵本。



『おじいさんの旅』

ほるぶ出版 2002年 Eセ

アレン・セイ 作 時間：5分

ぼくのおじいさんが若者のとき、世界を見ようと旅に出た…。

アメリカへ渡った日本人男性の、2つの国への思いを、孫の視点から静かに描いた作品。1枚1枚の絵が、おじいさんのアルバムを見るようです。



『おとうさんのちず』

あすなろ書房 2009年 Eシ

ユリ・シュルヴィッツ 作 時間：4分

戦争で故郷を追われたぼくたちが、命からがらたどりついたのは、夏は暑く、冬は寒い東の国。食料は乏しく、土をかためた床の上で眠る毎日にあるときお父さんは…。

1枚の世界地図がぼくにくれた魔法の時間。絵本画家シュルビッツが子ども時代を語る感動の自伝絵本。



『からすたろう』

偕成社 1979年 Eヤ

やしまたろう 作 時間：9分

学校の教室では無視されていた少年、からすたろうには、かくされた才能が…。

人が人のありのままを受け入れることの大切さを考えさせられる絵本。



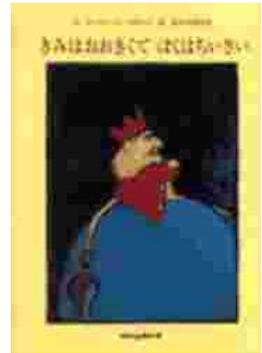
『きみはおおきくてぼくはちいさい』

ソニー・マガジズ 2004年 Eソ

グレゴワール・ソラレフ 作 時間：10分

ひとりぼっちの小さいゾウが、王さまのライオンといっしょに暮らし始めます。いつしか2人は親子や兄弟のような存在になります。やがてゾウは成長し、大きくなりました。すると王さまのライオンはゾウを追い出してしまうのです。

いっしょにいる、そばに誰かいることの安らぎ、あたたかさを感じます。



『ごんぎつね』

偕成社 1986年 Eク

新美南吉 作

黒井健 絵 時間：15分

兵十が病気の母親のためにとったうなぎをうばってしまった、いたずら好きのごんぎつね。つぐないに栗やまつたけを届けるのですが…。

美しく、悲しいおはなし。



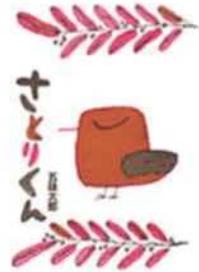
『さととりくん』

クレヨンハウス 1996年 Eコ

五味太郎 作 時間：4分

さととりくんは、悟っている鳥です。なにがあってもあわてず、さわいだりなんかしません。

ちょっとスカしたさととりくん、クスッと笑えるおはなしです。



『しろいうさぎがやってきて』

フレーベル館 2004年 Eハ

エリック・バテュ 作 時間：4分

うさぎの村に、ある日白いうさぎがやってきた。そいつはきまりを作り、きまりに合わないウサギを村から追い出した。やがて村には白いうさぎだけ。そこにもっと大きいウサギがやってきて…。

ちょっと怖いおはなしですが、孤独、幸せについて考えさせられます。



『ストライプ たいへん! しもようになっちゃった』
セーラー出版 1999年 Eシ
デイヴィッド・シャノン 作 時間: 10分

ある日、とつぜんからだがしもようになってしまったカミラ。どんなお医者さんもカミラの病気を治せません。それどころかひどくなる一方。どうすれば元のからだに戻るのかしら…。

カラフルで楽しいおはなし。

『ぜつぼうの濁点』

教育画劇 2006年 Eユ
原田宗典 文
柚木沙弥郎 絵 時間: 7分

むかしむかし、あるところに言葉の世界がありまして、その真ん中におだやかな、ひらがなの国がありました。

ひらがなの国でおきたふしぎなお話。



『ぞうのさんすう』

あすなろ書房 2000年 Eハ
ヘルメ・ハイネ 作 時間: 10分

1年1つずつウンチの数がふえていくゾウ。50個になった次の年、ウンチは49個になり、やがて1つになりました。

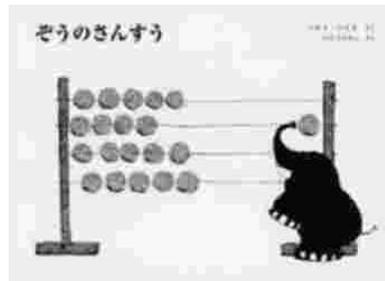
年を重ねるからこそ、わかることがある。死んでいくゾウですが、満足して幸せだったことが静かに伝わります。

『ぞうのせなか』

講談社 2007年 Eア
秋元康 文
網中いづる 絵 時間: 8分

ゾウのポッポは、夜出かけるお父さんの後をそっと追いかけます。川やトラがすむほら穴に行くお父さんは何をしているのでしょうか。

命の終わりをさとった父親ゾウが子どもに残したものは？



『そこがちょっとちがうんだ』

文研出版 1976年 Eス

今江祥智 文

杉浦範茂 絵 時間：4分

ぼく、あべたろう。名簿で1番だと思っでしょ。でも違ふんだ。それにテストの点が悪くても、お父さんもお母さんも怒らないから平気。ぼくって変わってる？

他にもテレビが白黒だったり。ちょっと変人だけど自由な考え方は、ちょっとうらやましく感じられるかもしれません。



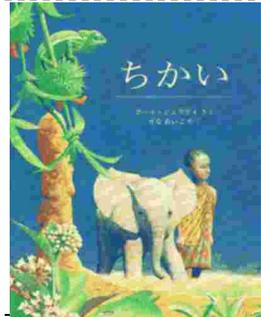
『ちかい』

評論社 1996年 Eシ

ポール・シェラティ 作 時間：8分

おじいさんとはぐれてしまったヤミーナは、草原で密猟者に母親を殺された子ゾウを見つけます。

大自然の雄大さと厳しさ、美しさをみごとに描いています。ヤミーナはどんな思いで狩人にはならなと誓ったのでしょうか。



『地球からの手紙』

文化出版局 1995年 Eナ

井本由紀 文

中條正義 絵 時間：4分

この手紙は、火星査察官協会会長M. マナーから火星大統領マーサーへ宛てた、人類によって滅ぼされかけている、宇宙で最も美しい星である地球の調査報告書です。

これは、イギリスに暮らしていた日本人の女の子がコンクールで1位を取った手紙を絵本にしたものです。



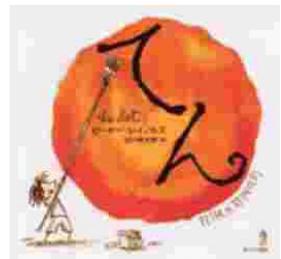
『てん』

あすなろ書房 2004年 Eレ

ピーター・レイノルズ 作 時間：3分

絵が描けないワシテが書いた「・」がりっぱな額に入れて飾ってあった！

自分を見つける勇気もらえるおはなし。

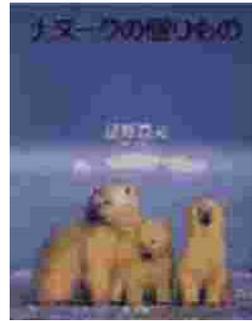


『ナヌークの贈り物』

小学館 1996年 Eホ
星野道夫 作 時間：4分

吹雪の夜、ぼくはシロクマと出会った。ぼくたち（イヌイット）は、シロクマを氷の世界の王者＝ナヌークの後をついていった。すると風の中からかすかな声が聞こえてきた…。

自然と対峙して生きる人の言葉が、美しい写真とともに綴られた、胸に響く絵本です。



『におい山脈』

あすなろ書房 1978年 Eカ
棕鳩十 作
横山俊夫 画 時間：25分

自然破壊ですみかを失った動物たちが、世界中のごみを集めて山脈をつくります。

現代文明を鋭く批判した本。



『はかまだれ』

ひくまの出版 1984年 Eム
舟崎克彦 作
村上豊 絵 時間：4分

悪行の限りをつくした盗賊「はかまだれ」も、今では落ちぶれて、役人どもに追われていた。初めて仏にすぎると、岩が転がってきて、はかまだれは下敷きに。岩ははかまだれの母親だった…。

大どろぼうと母親のふしぎな物語。



『はるかな湖』

徳間書店 1999年 Eセ
アレン・セイ 作 時間：8分

夏休みだというのに、父さんは朝から晩まで仕事ばかり。でも、ある土曜日の朝、「キャンプにいくぞ。」とうさんのひとことで、ぼくたちの旅は始まった…。

無口な父と内気な息子。ふたりの間にかよひあう愛情を静かに綴った心にしみいる絵本。



『ホームランを打ったことのない君に』

理論社 2006年 E八

長谷川集平 作 時間：6分

試合でちっとも打てないぼくは、野球部出身の仙吉に出会う。ぼくも、いつかホームランを打つ。あきらめずにがんばろうと誓うのだった…。

夢にむかって歩き続けることの大切さを、野球が大好きな少年と野球を愛し続ける青年の交流を通して描く絵本。



『ほら、いしころがおっこちたよ ね、わすれようよ』

偕成社 1980年 E夕

田島征三 作 時間：8分

おじいさんは、いつも何をやっても失敗ばかり。今日こそはうまくやってみせるぞ！と思うのですが…。

失敗で落ち込んだときに、励ましてくれる人がいたり、自分なりの切り替えがあるといいなと感じさせてくれる絵本です。



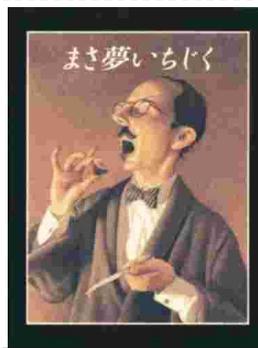
『まさ夢いちぢく』

河出書房新社 1994年 Eオ

C・V・オールズバーグ 絵・文 時間：9分

どんな夢でもかなえてくれるいちぢく。ピボット氏が手に入れたいちぢくには奇想天外な力があつた。そこで彼は、世界一の金持ちになっている自分を夢に見るぞ、と決心して…。

オールズバーグの傑作絵本。



『魔法のことはば』

福音館書店 2000年 Eユ

柚木沙弥郎 絵 時間：4分

昔、人間は、動物と同じことはばを話した。そしてそのことはばは魔法のことはばだった。

イヌイットに伝わる詩の一編を絵本にしたもの。先人のことはばは重く深いものがあります。



『メアリー・スミス』

光村教育図書 2004年 Eユ

アンドレア・ユーレン 作 時間：4分

まだ夜が明けきらないうちに家を出るメアリー・スミス。一軒の家の前に来ると、窓ガラスめがけて豆をチューブに込めてプッとひとふき。彼女の仕事は“目覚まし屋”なのです。

ノッカー・アップは、正確な時計がまだ普及していなかった頃にイギリスにあった職業で、彼女も実在の人物です。



『もしもゆきがあかだったら』

フレーベル館 2003年 Eハ

エリック・バテュ 作 時間：5分

もし雪が赤だったら、ぼくはスーパーヒーローになる。
もし雪が黄色だったら、ぼくは冒険家になる。

自分を変えたい（変わりたい）と思っているとき、ちょっとしたきっかけがになりそうな絵本です。



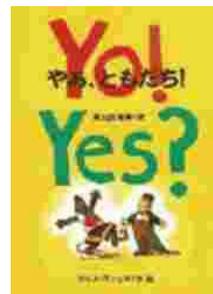
『やあ、ともだち！』

偕成社 1995年 Eラ

クリス・ラシュカ 作 時間：3分

ともだちのいない男の子の目の前にあらわれた、自分とはちょっとちがう男の子。言葉をかけるたびに、びっくりしたり、ドキドキしたり。

ちょっとちがうと思ったことを、言葉はかんたんに飛び越える。ふたりの心がまっさらだから。



『ヤクーバとライオン 1 勇気』

講談社 2008年 Eテ

ティエリー・デデュ 作 時間：4分

ヤクーバのすむアフリカの小さな村は、成長した少年は一人でライオンと戦い、倒したものが戦士と認められる、ヤクーバもその日を迎え、ライオンに挑みかかる。そのときライオンが語りかけてきた。

白黒だけの絵本ですが、迫力があり、話の重厚さにあっています。



『ヤクーバとライオン 2信頼』

講談社 2008年 Eテ

ティエリー・デデュ 作 時間：4分

食べるものがなくなり、人も動物たちも飢えて次々に死んでいく。ライオンのキブウェは、ついにヤクーバの村へとむかう。

「ヤクーバとライオン1 勇気」の続編。人にはいつかなにかと戦わなくてはならない時期が訪れます。それに立ち向かう覚悟や勇気をもたらせるおはなしです。



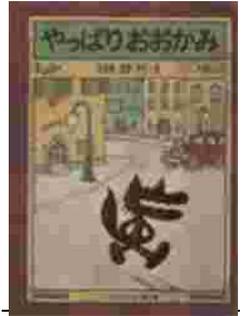
『やっぱりおおかみ』

福音館書店 1977年 Eサ

ささきまき 作 時間：3分

もうおおかみはいないといわれている時代に1匹だけ生き残ったオオカミ。どこかに仲間はいないか探しに出かけます。

どの学年でも楽しめると思いますが、オオカミがつぶやく「け」の気持ちと一人を受け入れる気持ちは学年が上がったほうが伝わるのではないのでしょうか。



『ヨニイのビニールがさ』

岩崎書店 2006年 Eシ

ユン・ドンジェ 作

キム・ジェホン 絵 時間：3分

雨の日、学校へ行く道でヨニイは、雨にぬれて眠っているものごいのおじいさんをみかけます。授業が始まってもヨニイはおじいさんのことが気になってしかたありません。

韓国の絵本。壁に立てかけられた傘から、おじいさんの「ありがとう」の気持ちが伝わってきて、全体的には寂しい感じの絵ですが、最後にほんのりあたたかみが感じられます。



『ロボットとあおいことり』

偕成社 2007年 Eル

ディヴィッド・ルーカス 作 時間：5分

心臓が壊れ、捨てられたロボットは、弱って寒くなる前に力尽きてしまいそうな青い小鳥を胸に、南の国をめざします。

捨てられたロボットの悲しさ、優しさと強さが伝わってきます。



おはなし（物語）のえほん

～どの学年でも～

『100万回生きたねこ』

講談社 1978年 Eサ

佐野洋子 作・絵 時間：7分

100万回死んで、100万回生まれ変わったト
うねこ。自分しか愛さなかった彼が、はじめて
他人を愛したとき…。

この世に生まれた意味を問いかける絵本。



『秋』

絵本館 1981年 Eコ

五味太郎 作 時間：2分

画面の中に棒が1本。秋らしいいろんなものが
止まります。

とても短い文なので間合いに気をつけましょう。



『あな』

福音館書店 1983年 Eワ

谷川俊太郎 文

和田誠 絵 時間：4分

日曜日の朝、ひろしは穴を掘り始めた。そし
て穴の中ですわりこんだ。そして穴から出たひ
ろしは穴を埋め始めた。

単調に思えるお父さんや妹たちとのやりとり
も、なんだか絶妙でふしぎなおはなし。ずっと
縦にページをめくります。



『あなたがうまれたひ』

福音館書店 1999年 Eフ

デボラ・フレイジャー 作 時間：5分

動物たち、地球、太陽や月までも、あなた
が生まれてくるのを待っていた。

それぞれの絵には自然のなりたちが描かれ
ています。地球に生まれてくるすべてのいの
ちが、尊いものだということが伝わってきま
す。



『いろいろな日』

BL出版 1998年 Eス

ドクター・スース 作 時間：3分

きいろい気分、青い気分。いろんな日がある。でも、みんなぼくなんだ。

こんなふうに自分のことや他の人のことも理解していけたらいいな、と思います。



『いわしくん』

文化出版局 1993年 Eス

菅原たくや 作 時間：2分

いわしはつかまって、買われて、焼かれて、食べられた。でもそれだけで終わらない、いわしの物語。

食べることはいのちをいただくことだと感じ、元気が体からわいてくるような短いおはなし。



『おおきくなるっていうことは』

童心社 1999年 Eム

中川ひろたか 文

村上康成 絵 時間：3分

大きくなるって洋服が小さくなること、水に顔をつけられること、あんまり泣かないこと、それからほかにもいっぱいあるんだよ。

ひとつ大きくなる時期（進級、卒業など）にぴったりの本です。



『オースツパ』

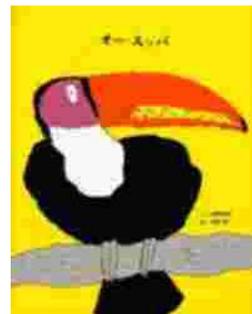
講談社 1999年 Eタ

越野民雄 文

高島純 絵 時間：5分

きいろいレモンをかじったら…。動物たちがふとしたことから、思わずかじってしまったレモン。すっぱくってすっぱくってびっくり！

すっぱさに驚く表情と、独特の節回しがおもしろい絵本。



『おじいちゃんの木』

佼成出版社 2004年 Eム

内田麟太郎 文

村上康成 絵 時間：3分

みんなは会えるわけないって言うけれど、こざるのモンちゃんは自転車にのって、おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんに会いに行きます。ホントですよ。

いのちのつながりがやさしく伝わってきます。



『おじいちゃんのまち』

講談社 1989年 Eノ

野村たかあき 作 時間：5分

となり町でひとりぐらしのぼくのおじいちゃん。ひとりぼっちでさびしくないのかな？どうしてぼくたちのところにきて、いっしょにくらさないんだろう？おじいちゃんの町には、なにかひみつがあるのかな？

自分のしらないところで、おじいちゃんがどんな暮らしをしているのか。一緒に過ごすことで少しずつ理解を深めていく絵本。



『おふろじゃおふろじゃ バスタブ王ビドグッド』

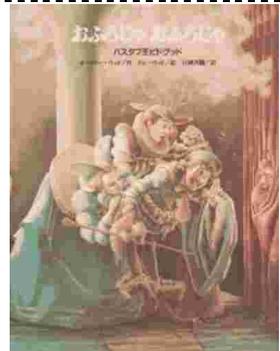
ブックローン出版 1993年 Eウ

オードリー・ウッド 作

ドン・ウッド 絵 時間：5分

お風呂好きのバスタブ王ビドグッドは、朝から湯船につかりっぱなし。お城中のけらいたちが、あの手この手で王さまをお風呂から出そうと知恵を絞りますが…。

重量感のある絵と時代性を感じさせる簡潔な文章が、お風呂好きな王さまのある一日を滑稽に物語ります。



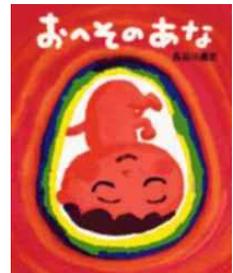
『おへそのあな』

BL出版 2006年 Eハ

長谷川義史 作 時間：3分

まだお母さんのおなかの中にいる赤ちゃん。だけど、おへその穴から見える、におう、聞こえるよ。家族みんなが。これから生まれていく世界が。

いのちの不思議、よろこびが伝わってくるおはなし。



『木はいいなあ』

偕成社 1977年 Eシ

ジャニス・メイ・ユードリイ 作

マーク・シーモント 絵 時間：3分

登ったり、落ち葉で遊んだり、こかげで涼んだり…。

木っていいよね。

木のある生活の楽しさ、うれしさが描かれた絵本。



『しろふくろうのやま』

リブリオ出版 2000年 Eテ

手島圭三郎 作 時間：5分

しろふくろうは、シベリアにすむ大きなふくろうです。流水にのってきて帰れなくなった若いしろふくろうが、次の冬がくるまで北海道で過ごします。

北の厳しい自然に生きる姿を版画で力強く美しく描いています。



『だくちるだくちる はじめてのうた』

福音館書店 1993年 Eチ

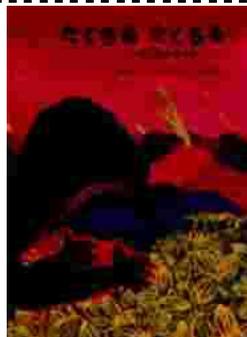
V. ベレストス 原案

阪田寛夫 文

長新太 絵 時間：3分

まだ人間が地球に存在していなかったころ、イグアノドンがいました。火をふく山はうるさかったけれど、彼はさびしかった。だけど、ある日だくちるだくちる。音が聞こえてきました…。イグアノドンはいのちの音を感じたのでしょうか。

阪田さんの文（詩）がすばらしいと思います。



『ダンデライオン』

福音館書店 2005年 Eフ

ドン・フリーマン 作 時間：9分

キリンのジェニファーさんのお茶会に、思いきりおしゃれしてでかけたダンデライオン。ところがおしゃれしすぎて、だれだかわかってもらえません。

「自分らしさ」を考えるおはなし。



『とべバッタ』

偕成社 1988年 Eタ
田島征三 作 時間：3分

自分をねらうおそろしいものにおびえてく
らしていたバッタ。そんなくらしがいやにな
り、大きな石の上でひなたぼっこを始めた。
すると、ヘビがバッタに襲いかかってきた…。

少し大きめの本に力強く描かれたバッタか
ら元気と勇気をもたらえます。旅立ちの季節にぜひ
読んでほしいおはなしです。



『ぼくのおとうさんははげだぞ』

架空社 1998年 Eソ
そうまこうへい 作 時間：3分

ぼくのお父さんはハンサムだけど、はげている。遺
伝なんだって。じゃあ、ぼくもはげちゃうの？
受け継がれていくいのちをやさしく感じられるおはな
し。

楽しいので、どの学年でも使えると思います。短いおはなし。

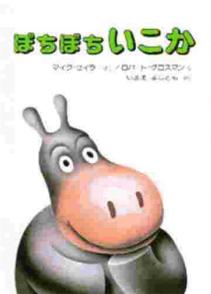


『ぼちぼちいこか』

偕成社 1980年 Eク
マイク＝セイラー 作
ロバート・グロスマン 絵 時間：3分

のんびり、おっとりのカバくんが、いろいろな仕事
に挑戦。でも、重量級のカバくんは、ことごとく失
敗…。

関西弁が味わい深く、楽しい絵本。



『ルラルさんのにわ』

ポプラ社 2001年 Eイ
いとうひろし 作 時間：3分

ルラルさんは、芝生の庭が自慢です。だれかが
庭に入ろうとすると、得意のパチンコで追い払
います。ある朝ルラルさんが庭を見ると、大きな丸
太が！丸太だと思ったものは、なんと、ワニでし
た！



読んだあと、芝生の上にねそべってみたいくなる、ホッとできるおはなし。

むかしばなし・民話のえほん

～ 日本 ～

『いっすんぼうし』 福音館書店 1965年 Eア
いしのもこ 文 時間：14分
あきのぶく 絵

むかし、子どもがないおじいさんとおばあさんはお天とうさまにお願いして、ようやく親指ほどの男の子を授かりました。「一寸法師」と名付け、かわいがって育てますが、少しも大きくなりません。一寸法師は、ある日、都でひと働きしようと旅のしたくをととのえました。

秋野不矩さんの本格的な日本画が素晴らしい絵本です。



『うらしまたろう』 福音館書店 1974年 Eア
時田史郎 再話 時間：6分
秋野不矩 画

たろうは、村の子どもたちにいじめられていた亀を助けました。その亀は、りゅう王の娘おとひめでした。おとひめは助けてもらったお礼に、たろうを龍宮に招待します。

日本の代表的な昔話。水彩画で美しく描かれた絵が、おはなしとよく合っています。途中、横開きから縦開きになる場面があります。



『えんぎかつぎのだんなさん』 福音館書店 2004年 E力
桂文我 話 時間：7分
梶山俊夫 絵

呉服屋のだんなは、なんでも縁起をかつぐことで有名でした。「うえ」「かみ」「あがる」はだいすきですが、「した」「しも」「さがる」を聞くとおこります。丁稚のさだきちとかめきちは、ごちそうしてもらおうと、ザル売りのもきちに入れ知恵をするのですが…。

らくご絵本。会話はテンポよく読むといいでしょう。



『おこんじょうり』 理論社 1977年 Eイ
さねとうあきら 文 時間：18分
井上洋介 絵

年をとって占いもまじないもうまくいかなかったイタコのばばさまの家に、はらぺこキツネがすみついた。このキツネのうなる浄瑠璃は人の病気やケガを治す不思議な力をもっていた。

最後は少し悲しい結末ですが、ひとりぼっちのばばさまとキツネの交流があたたかいおはなしです。昔話風創作です。



『かえるをのんだととさん』 福音館書店 2008年 Eサ
日野十成 再話 時間：5分
斎藤隆夫 絵

おなかが痛くなったととさんは、おしょうさんに言われたようにカエルを飲みました。でも、おなかの中でカエルが歩くので気持ちが悪い。するとおしょうさんは、今度はヘビを飲めと…。

おしょうさんに言われるままにオニまで飲んでしまうととさん。節分の時期に読むのもいいでしょう。



『かさじぞう』 福音館書店 1966年 Eア
瀬田貞二 再話 時間：6分
赤羽末吉 絵

むかし、貧乏なじいさんとばあさんがいました。おおみそかに、じいさんは編み笠を売りに町に出かけますが一つも売れません。帰り道、吹雪の中、野原にたっているお地藏様に、笠をかぶせて帰りました。すると明け方にどこからか声が聞こえてきました。

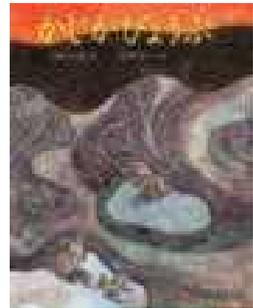
お正月を迎える、日本の昔話。



『かじかびょうぶ』 童心社 2004年 Eオ
川崎大治 文 時間：8分
大田大八 絵

奇妙なじいさまに会い、かじかざわを売るのを思いとどまった、なまけものの菊三郎。ある夜、菊三郎に残こされた古ぼけた枕屏風に、不思議なことがおこります。

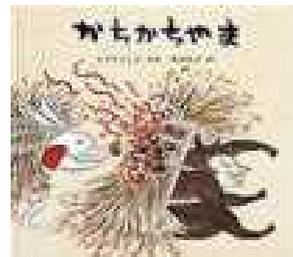
伊豆地方に伝わる昔話。



『かちかちやま』 福音館書店 1988年 Eア
おざわとしお 再話 時間：8分
赤羽末吉 画

じいさまは、つかまえたたぬきに、ばあさまを殺されてしまいました。くやしくて泣いているじいさまに、うさぎは「かたきをとってやる」と約束しました。

無駄のないシンプルな文と、話の雰囲気ぴったりと合った絵が、昔話の世界に引き込みます。



『きつねによぼう』 福音館書店 1997年 Eカ
長谷川摂子 再話 片山健 絵 時間：6分

貧乏なひとり者の男が、雨の降る夜、若い女に泊めてほしいと声をかけられました。一夜の宿のつもりが、女はそのまま居ついて、二人は夫婦になり、やがて男の子が産まれます。男の子が三つになった春の日のこと、みごとな椿に見とれていると、男の子がかかの尻尾に気がつきました。

力強いタッチの絵、穏やかな語り口の文、きつねのかかの心情などが、静かに心に残ります。



『こぶじいさま』 福音館書店 1980年 Eア
松居直 文 時間：8分

赤羽末吉 画

むかし、ひたいに大きなこぶのあるおじいさんが日が暮れて帰れなくなり、山のお堂にとまりました。すると夜中に、大ぜいの鬼がやってきて…。色のついたページと、墨だけで描かれたページが

交互に生まれ、平易な語り口とともに、物語の世界にひきこんでくれます。歌の部分はリズムカルに読んであげると、場面の雰囲気が伝わるでしょう。



『さるとかに』 銀河社 1999年 Eア
神沢利子 文 時間：11分

赤羽末吉 画

さるに親がにを殺された子がにたちが、くまんばち、栗、牛のふん、うすの力を借りて敵討ちをします。

昔話は、地方によって少しずつ伝わり方が違っていきます。この絵本では、栗たちが、きびだんごをもらって仲間になります。柿の育つところも語られていますし、絵がおはなしに合っています。



『さんまいのおふだ』 福音館書店 1985年 Eカ
水沢謙一 再話 時間：5分

梶山俊夫 画

山へ花きりに行った小僧が、行き道に迷います。たどりついた山の中の家には、白髪のおばばがいました。一晚泊めてもらうことにした小僧が夜中に目をさますと、おばばは鬼婆になっていて、小僧を食べようとしていました。

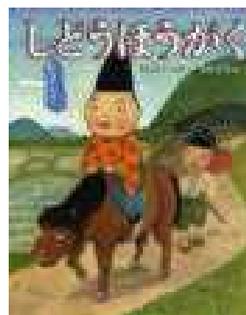
スリリングな中にもユーモアあふれる新潟の昔話です。方言ですが、語るように読んであげてほしい1冊です。



『しどうほうかく』 講談社 2007年 Eア
もとしいづみ 文 時間：7分
青山友美 絵

いばりんぼうのご主人に頼まれて借りてきた馬が、後ろでせきをするとあばれること、あばれた時に静かにする方法を、たろうかじゃだけは聞いて知っていました…。

狂言「止動方角」を基にした絵本。いばるご主人を呪文をつかってこらしめる姿が痛快です。



『ずいとんさん』 福音館書店 2005年 Eサ
日野十成 再話 時間：4分
斎藤隆夫 絵

留守番を頼まれたこぞうのずいとんさんが、お経の最中にいねむりをしていると、どこからか「ずーいとん ずーいとん」と呼ぶ声。それがキツネのいたずらだと知ったずいとんさんは、キツネをこらしめようとします。

お寺周りの風景もどかで美しく、ずいとんさんとキツネのやりとりが楽しいおはなし。



『だいくとおにろく』 福音館書店 1967年 Eア
松居直 文 時間：5分
赤羽末吉 画

流れの速い大きな川に、橋をかけることを頼まれた大工は、川から現れた鬼に、お前の目玉をよこしたら橋をかけてやろうと言われます。橋ができると、鬼は「目玉よこせ、だがおれの名前をあてれば許してもええ」と言います。

横長のページを活かした絵が、昔話のおもしろさを盛り上げます。



『だいこんとにんじんとごぼう』 アスラン書房 2004年 Eツ
つるたようこ 再話・絵 時間：2分

むかし、だいこんとにんじんとごぼうは、みんな白かった。ある日三人はそろって山登りに出かけたのですが…。

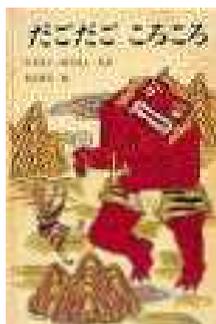
なぜ大根は白く、にんじんは赤く、ごぼうは黒くなったのかの由来話。お風呂に入るのが一般的に知られていますが、これは違うお話です。野菜の表情も豊かで、楽しく読めます。



『だごだごころころ』 福音館書店 1993年 Eカ
石黒渥子・梶山俊夫 再話 時間：7分
梶山俊夫 絵

だご（だんご）を作るのが上手なおばあさん。赤鬼につかまって、不思議なしゃもじでだごを作らされていましたが、以前山で助けた赤とんぼに助けられ、赤鬼どもから逃げ出します。

赤鬼の表情がなんともおかしく、でも鬼からにげる場面ハラハラします。節分の時期に読むのもいいでしょう。



『つぶときつねのはしりっこ』 アスラン書房 2005年 Eミ
いしだとしこ 文 時間：4分
みやじまともみ 絵

むかし、いばりんぼうの赤ギツネにからかわれたつぶ（たにし）は、勝負を挑みます。

会津地方に伝わる昔話。方言（金山弁）が少し読みづらいですが、絵がとても美しく、幻想的です。赤ギツネが石段を駆け上るところは絵が縦になるので見せ方に注意しましょう。



『てんぱたんてんぱたん ねずみのもちつき』
福音館書店 1995年 Eカ
梶山俊夫 再話・絵 時間：5分

山でねずみにむすびをわけてあげた気のいいじいさんは、ねずみに招かれ、ごちそうになり、土産までもらって帰ってきた。それを聞いたとなりのよくふかなばあさんは、さっそくじいさんを山に行かせるのですが…。

「おむすびころりん」「ねずみじょうど」などとして知られる日本の昔話。



『なむチンカラトラヤーヤー』
ほるぶ出版 1985年 Eオ
多田ちとせ 文 太田大八 絵 時間：6分

むかし、いねむりの好きなおしょうさんとトラねこがすんでいました。おしょうさんが、知らない間に袈裟が汚れているのを不思議に思っていると、夜にトラねこが袈裟を着て出かけていきます…。

信州に伝わる昔話。「なむチンカラトラヤーヤ」はお経を詠むつもりになって読むと楽しいと思います。



『ねずみのすもう』 偕成社 1983年 Eア
神沢利子 文 時間：8分
赤羽末吉 絵

ある日おじいさんは、かわいいかけごえを耳にします。のぞいてみると、やせっぽちのおじいさんの家のねずみと、ふとった長者どんどの家のねずみがすもうをとっていました…。

「でんかしよ でんかしよ」の呼び声も楽しい日本の昔話。



『パヨカカムイ』 小峰書店 2000年 Eイ
かやのしげる 文 時間：7分
いしくらきんじ 絵

ユカラ（アイヌに語り伝えられた物語）を語ることで、病気をまきちらす神“パヨカカムイ”から村を救った、狩りがへたで、貧しいアイヌの男の話。

アイヌ民族に語りつがれた昔話。アイヌの人たちの暮らしや文化にふれるきっかけにもなる絵本。



『はなさかじい』 フレーベル館 2002年 Eセ
松谷みよ子 文 瀬川康男 絵 時間：12分

まめまめしく働くじいとばあは、木の根っこからうまれた子犬のしろをかわいがっていました。大きくなったしろは、じいさまを背中に乗せて山へのぼると、「ここほれ ワンワン」といって…。

日本の5大昔話の1つ。この昔話は多種あります。この絵本は、まめで優しいじいとばあと、となりの怠け者のぶつくさじいと対比がはっきり描かれ、表情豊かな味わい深い絵です。



『ふくろうのそめものや』 鈴木出版 2001年 Eヤ
山口マオ 絵 時間：2分

むかし、ふくろうはそめものやをしていました。そのころからすは、真っ白できれいなからだをしていたのですが、他の鳥たちが、次々ときれいな色になるのを見て、だれよりもきれいにそめてもらいたくなりました。

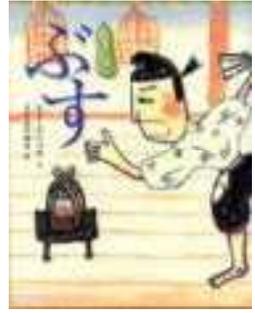
からすがどうして真っ黒になったか、のおはなし。遠目のきく版画の絵がおはなしとぴったりな、ユーモラスな日本の民話です。



『ぶす』 講談社 2007年 Eサ 時間：10分
もとしたいづみ 文 ささめやゆき 絵

ある日主人は、この壺には、風に当たるだけでも死んでしまうおそろしい毒が入っているから近づくな、と家来2人に言いつけて出かけます。家来たちはそんなにおそろしい毒を見てみたくなり…。

狂言「附子」をもとにした絵本。なんとかして中身を見ようとする様子や、独り占めしようとした主人をこらしめる様が楽しいおはなしです。



『ふるやのもり』 福音館書店 1969年 Eタ
瀬田貞二 再話 時間：7分
田島征三 絵

子馬をねらって、馬どろぼうとおおかみが馬小屋にひそんでいると、おじいさんとおばあさんが、この世でいちばんおそろしいものについて話し始めました。

“ふるやのもり”（古い家の雨漏り）を恐ろしい生き物と勘違いしていく様が楽しいおはなし。



『まめとすみとわら』 アスラン書房 2002年 Eツ
つるたようこ 再話・絵 時間：3分

炉辺で出会った豆と炭とわらは、三人でお伊勢参りに行くことにしました。橋がかかっている川のところ、三人が困っていると、わらが「おれが橋になってやる」と言って横たわりました。最初に炭が渡りましたが、残り火が燃えだして…。

豆になぜ黒いところできたか、という由来話。絵がユーモラスで楽しいおはなし。



『みるなのくら』 福音館書店 1989年 Eア
おざわとしお 再話 時間：5分
赤羽末吉 絵

うぐいすの鳴く声にさそわれて山奥へ迷い込んだ若者は、美しいあねさまがいるお屋敷に一晩泊めてもらうことにします。12番目の蔵はけっして見ないようにと言われたのに、1番目の蔵を開けた若者は次々に中を見たくなり…。

蔵ごとの景色が美しく幻想的です。



『ももたろう』 福音館書店 1965年 Eア
松居直 文 時間：10分
赤羽末吉 絵

むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが
すんでいました。おじいさんは山へしばかりに、
おばあさんは川へせんたくにゆきました。

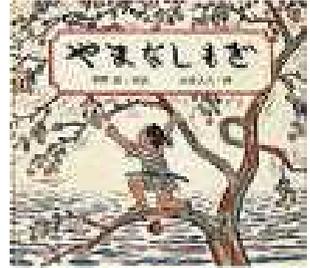
桃から生まれた桃太郎が、犬と猿ときじをお供に
つれ鬼退治をするという、おなじみの昔話を絵本化
した作品です。リズムカルな文、絵と文字の配置…、桃太郎絵本の傑作です。



『やまなしもぎ』 福音館書店 1977年 Eオ
平野直 再話 時間：7分
太田大八 絵

お母さんと三人の兄弟が住んでいました。病氣
のお母さんに食べさせようと、山梨もぎに出かけ
る三人の兄弟。ところが、上の二人は沼のぬしに
のまれ、とうとう末の三郎の番になりました。

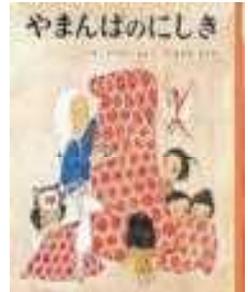
笹やふくべが正しい道を教えて歌うところやく
り返しが、耳に心地よいおはなしです。



『やまんばのにしき』 ポプラ社 1967年 Eセ
松谷みよこ 文 せがわやすお 絵 時間：7分

「ちょうふく山のやまんばが子どもうんで、もち
ついてこう。ついてこねば、人も馬もみな食い殺すど
お。」という恐ろしい声に、ふもとの村では大騒ぎ。日
頃いばっている若者二人がもちを持たされ、道案内の
あかざばんばと山へ向かいます。

秋田に伝わる民話。ふくよかでやさしいやまんば、
心あたたまるおはなしです。



むかしばなし・民話のえほん

～ 外国 ～

『アナンシと6びきのむすこ』 ほるぷ出版 1980年 Eマ

ジェラルド・マクダーモット作 時間：6分

くものアナンシの6びきのむすこは、それぞれすばらしい特技をもっていました。あるとき、アナンシが旅に出て困ったことになると、6びきのむすこたちが、特技をいかして助けてくれます。

アフリカ民話。デザインのような絵と色使いが鮮やかで力強く、超人のような特技も楽しめるおはなしです。



『いぬとねこ』 光村教育図書 2007年 Eシ 時間：5分

ソ・ジョンオ再話 シン・ミンジェ絵

おばあさんが、イヌとネコと暮らしていました。おばあさんは助けたスッポンから、願ったことがなんでもかなう魔法の玉をもらいました。よくばりばあさんに取られてしまった玉を、犬とネコが取り戻しにいきます。

韓国の昔話。ネコと犬の鳴き声がかわっていますが、韓国ではこう聞こえるのだそうです。



『おおかみと七ひきのこやぎ』 福音館書店 1967年 Eホ

グリム童話 時間：12分

フェリクス・ホフマン 絵

おかあさんやぎは、かわいい子やぎたちに「おおかみに、くれぐれも気をつけるように」と言いおいて、出かけていきました。まもなく、おおかみがやってきて…。

グリム童話の1つを絵本化したものです。落ち着いた色調の絵がお話をひきたてています。原作を忠実に描いた絵本です。



『おおきなカエル ティダリク』 福音館書店 2005年 Eカ

加藤チャコ 再話・絵 時間：5分

むかしむかし、ティダリクというでっかいカエルがいました。ティダリクに大平原の水をすべて飲まれてしまったほかの動物たちは、笑わせて水を分けてもらおうとするのですが…。

オーストラリア、アボリジニの昔話。前半の「水どこじゃあ」と言って歩くティダリクはこわく、なまずを見てヒクヒクなるところからは表情もおもしろく、変化も楽しめるおはなしです。



『おおぐいひょうたん』 福音館書店 2005年 Eサ

吉沢葉子 再話 時間：6分

斎藤隆夫 絵

フライラが見つけたまあるいひょうたんは、フライラのまねをしてとんだりはねたり。でも本当は肉を食う魔物が化けていたのです。

西アフリカの昔話。アフリカの大地や衣装、住居が色鮮やかな色彩で描かれています。

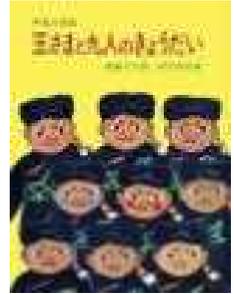


『王さまと九人のきょうだい』 岩波書店 1969年 Eア

君島久子 作 赤羽末吉 絵 時間：13分

子どものいないおじいさんとおばあさんのところに、ある日九人の赤んぼうが生まれました。九人の名前は「ちからもち」「くいしんぼう」「はらいっばい」「ぶってくれ」「ながすね」「さむがりや」「あつがりや」「切ってくれ」「みずくぐり」。名前通りの特技を持った兄弟が成長したある時、王さまが次々と難題をふっかけます。

中国に伝わる昔話。



『おだんごばん』 福音館書店 1966年 Eワ

瀬田貞二 訳 時間：6分

脇田和 絵

おばあさんが焼いたおだんごばんは、ころころころがり外へ。うさぎ、おおかみ、クマからも逃げてころがっていくと、今度はキツネに会いました。

ロシア民話。かさねことばがリズムよく、テンポのいいおはなしです。



『おなかのかわ』 福音館書店 1977年 Eム

瀬田貞二 再話 時間：6分

村山知義 絵

けちんぼのねこは、オウムが出してくれたごちそうにも満足できず、オウム、おばあさん、ロバ、王さまやゾウたちまで、まるのみにしてしまいました。最後に出会ったのは2匹のカニ。のみこまれたカニたちは…。

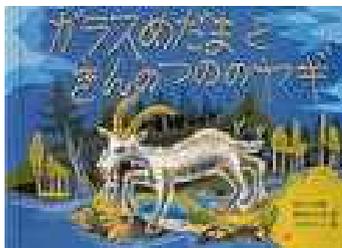
インパクトのあるストーリーと絵に、引きつけられます。



『ガラスめだまときんのやぎ』 福音館書店 1988年 Eス
田中かな子 訳 時間：5分
スズキコージ 絵

おばあさんの麦畑にヤギが入って出て行く
うとしない。出会ったクマがヤギを追い出そ
うとしますが…。

ロシア民話。最後にヤギを追い出したの
は？だんだん小さいいきものになっていく、
くり返し楽しいおはなし。



『金のさかな』 偕成社 2003年 Eワ
A. プーシキン 文 時間：10分
V. ワシーリエフ 絵

助けてくれたらなんでも望みをかなえてあげると
いう、金の魚を逃がしてあげたおじいさん。魚のこ
とばが本当だとわかると、おばあさんの欲はどんど
ん大きくなっていき…。

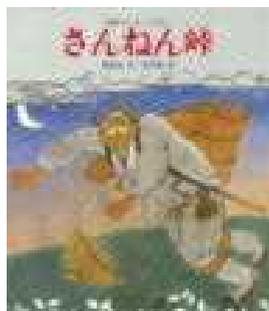
ロシア民話。絵と文がよく合っていて、楽しく聞
けるおはなしです。



『さんねん峠』 岩崎書店 1981年 Eハ
李 錦玉 作 時間：5分
朴 民宜 絵

さんねん峠で転んだら、あと3年しか生きられな
い。そんな言い伝えがありました。さんねん峠で転
んでしまい、みるみるうちに弱ってしまったおじい
さん。そこへ、見舞いに来た若者が言いました。

秋に読んであげたい、楽しくゆかいな、朝鮮の昔
話です。



『3びきのくま』 福音館書店 1962年 Eハ
トルストイ 作 時間：6分
バスネツォフ 絵

女の子が森で道に迷ってしまいました。すると家が
いっけんありました。この家は3びきのくまの家でし
た。家の中には大きいのと中くらいと、小さいおわん、
いす、ベットがそれぞれ3つありました。

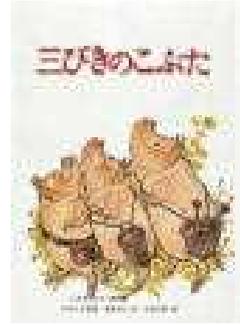
ロシアの昔話。ロシア語のくまの名前が難しいで
すが、それも文章の中でよいリズムになっています。



『三びきのこぶた』 福音館書店 1967年 Eヤ
瀬田貞二 再話 時間：7分
山田三郎 絵

母ぶたから独立した三びきのこぶたは、それぞれ家をたてました。1番目と2番目のこぶたは、おおかみに食べられてしまいますが、3番目のこぶたは、知恵を働かせて、オオカミをやっつけます。

このイギリス昔話を絵本にしたものは、多種ありますが、この絵本はもとの昔話を忠実に訳してあります。



『十二のつきのおくりもの』 福音館書店 1973年 Eマ
内田莉紗子 再話 時間：8分
丸木 俊 絵

スミレやイチゴなど、冬にはないものをとってこいと継母と義姉に家を追い出されたマルーシカは、森で焚き火を見つけます。そこには1月から12月までの月の精がいました。

スロバキア民話。「やもめ」「ままこ」はわかりづらいかもしれませんが。読む前に説明してもいいでしょう。



『スーホの白い馬』 福音館書店 1967年 Eア
大塚勇三 再話 赤羽末吉 絵 時間：10分

スーホが、草原で見つけ大事に育てた白い馬を、とのさまに奪われます。命がけでスーホのもとに帰ってきた白馬ですが、翌日死んでしまいます。すると、悲しみにしずむスーホの夢に白馬が現れました。

モンゴル民話。モンゴルの伝統楽器「馬頭琴」のおはなし。馬頭琴の音色が聞こえてきそうです。



『太陽へとび矢』 ほるぷ出版 1975年 Eマ
フェラルド・マクダーモット 作 時間：4分

昔、太陽の神が放った命の矢が、村の娘にあたり、娘は男の子を生みました。やがて男の子は、父を探す旅に出ます。太陽神の子であることを見抜いた矢づくりの老人は、男の子を矢にして、太陽に飛ばしてやりました。

アメリカ、プエブロインディアンの神話を、黒とオレンジを基調とした強い色調で、グラフィック的な技法で表現した絵本です。



『とらとほしがき』 光村教育図書 2006年 E八
パク・ジェヒョン 再話・絵 時間：5分

オオカミやトラでも泣き止まなかった赤ん坊が、ほしがきと聞くと泣き止んだのを見て、ほしがきをととも恐ろしいものだと思ったトラに、牛どろぼうが飛び乗りました。ほしがきが飛びついたと思ひ込んだトラは振り払おうと走り出します。

韓国の昔話。日本の昔話「ふるやのもり」に似ています。



『なんでも見える鏡』 福音館書店 1989年 Eス
フィツォフスキ再話 スズキコージ画 時間：8分

旅に出たジブシーは、銀色の魚、ワシの子、アリの王様を助け、お礼にウロコ、羽根、髪の毛をもらいました。困ったときにそれを燃やせば助けてくれるというのです。王女に恋をしたジブシーは、それらに力をかしてもらいます。

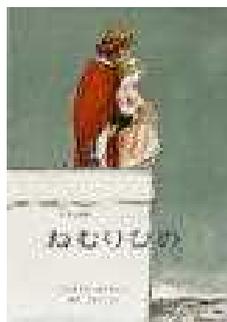
ジブシーの昔話。はみ出しそうな絵も迫力があり、おはなしを盛り立てます。



『ねむりひめ』 福音館書店 1963年 Eホ
グリム童話 時間：9分
フェリクス・ホフマン 絵

誕生祝いによばれなかったうらみをはらそうと、古い女がかけた呪いのために、いばらの生い茂る城で100年眠り続ける美しい姫。

グリムの昔話の中でも、よく知られた話の一つ。中世の雰囲気を感じさせる絵が、物語の世界に引き込んでくれます。



『ノックメニーの丘の巨人とおかみさん』 童話館 1997年 Eテ
トミー・デ・パオラ 再話・絵 時間：10分

気立てのいい大男フィン・マクールは、おかみさんのウーナと仲よくくらしていました。フィンをいためつけようとやってきたククーリンを、ウーナの知恵でこらしめます。

アイルランドの昔話。少し長めですが、絵と文がよく合った楽しいおはなしです。



『ハリネズミと金貨』 偕成社 2003年 Eオ
V. オルロフ原作 時間：10分
V. オリシヴァング絵

ハリネズミのおじいさんは、道で金貨を拾いました。冬支度のためにその金貨で干しキノコを買おうとしますが、どこにも売っていません。すると、リスが声をかけてきました。

ロシアのお話。他人を思いやるあたたかさ、優しい気持ちで満たされた満足感が伝わります。



『パンのかけらとちいさなあくま』 福音館書店 1992年 Eホ
内田莉紗子 再話 時間：8分
堀内誠一 絵

貧乏なきこりのパンを盗んできてしまった小さな悪魔は、きこりのために何か役に立つことをやってくるまで帰ってきてはいけない、と大きな悪魔たちに叱られます。そこで、小さな悪魔は、きこりの望みをかなえようとしています。

小さな悪魔が大きな知恵を働かせる、リトアニア民話。



『ひゃくにんのおとうさん』 福音館書店 2005年 E夕
譚小勇・天野祐吉 文 時間：7分
譚小勇 絵

働き者の若い夫婦が、畑から掘り出したかめは、入れたものが100個になる不思議なかめでした。かめの評判を聞いた町の地主はそのかめを無理やり取り上げてくるのですが、地主のところきたかめからは、悪いことばかりおこります。

中国の昔話。裏表紙までゆっくり見せてください。



『ブレーメンのおんがきたい』 福音館書店 1964年 Eフ
ハンス・フィッシャー 絵 時間：9分
瀬田貞二 訳

年をとり仕事ができなくなったロバは、ブレーメンの町の音楽隊にやとってもらおうと、家を飛び出します。途中で同じ境遇の犬と猫とニワトリに出会い、一緒に行くことにしました。森の中で日が暮れ、ようやく見つけた一軒家は、なんと泥棒の家でした。

おなじみのグリム童話。表情豊かに描かれています。



『ほーら、これでいい』 アートン 2006年 Eハ
ウォン=ディ・ベイ& 時間：5分
マーガレット・H・リップード 再話
ジュリー・パシュキス 絵

昔、頭と胴と腕と足はバラバラでした。頭はごろごろ
転がって、舌のとどくものしか食べられません。ある日
腕にぶつかり、頭と腕はくっついてみることにしました。

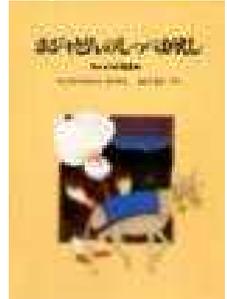
西アフリカ、リベリアの民話。色使いや、体がバラバ
ラだったという発想がおもしろいおはなしです。



『ホジャどんのしっぺがえし』 ほるぷ出版 1983年 Eオ
ギンセリ・オズギル 再話・絵 時間：10分

みんなから“ホジャ（先生）どん”と呼ばれている、
とんちのあるおじいさんが、寒さに強いことを自慢し、
若者たちと、冬の寒い夜、我慢くらべをします。一度は
まんまとしてやられますが、ホジャどんは、若者たちの
言ったことを逆手に、見事にしっぺがえしをします。

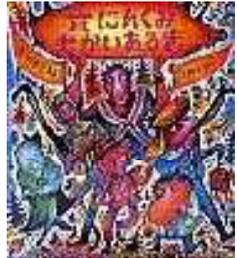
トルコの民話。民族性を感じさせる雰囲気描かれた、
冬に読むとぴったりの、愉快なおはなしです。



『六にんぐみ せかいあるき』 教育画劇 2001年 Eス
矢川澄子 再話 スズキコージ 絵 時間：10分

すごい特技をもった男たちと兵隊の6人ぐみ。都に
やってくると、かけっこをしてお姫さまに勝ったら、
おむこさんにする、という王様のおふれがでていまし
た。

グリム童話。人間離れした特技と、6人のコンビネ
ーションが楽しいおはなし。字がレタリング調で、印
刷文字と違って少し読みづらいです。



『ランパンパン』 評論社 1989年 Eア
マギー・ダフ 再話 時間：8分

ホセ・アルエゴ/アリアンヌ・ドウィ 絵

さらわれた女房を取り返すため、クロドリはネ
コ、アリ、木の枝、川を耳の中に入れて、一緒に
王さまのいる宮殿へ行くことにしました。

はっきりとした色彩のコミカルな絵が、奇想天
外なお話にぴったりな、インド民話。クロドリの
たたく太鼓の音、ランパンパンのくり返しが耳に心地よく響きます。



『ワシとミソサザイ』 さ・え・ら書房 2001年 Eラ
ジェーン・グドール 再話 時間：9分
アレキサンダー・ライヒシュタイン 絵

鳥たちが、だれが一番高く飛べるかで言い争いをしました。フクロウの提案で、高く飛ぶ競争を始めます。最後に残ったのはワシだけ、だと思ったのですが…。

ワシの力強さ、空からの風景、どれもすばらしく描かれています。力強く大きな夢をもって羽ばたいた2羽の姿は、卒業の季節に贈るおはななしとしても使えそうです。



『わらのうし』 福音館書店 1998年 Eコ
内田莉紗子 文 時間：6分
ワレンチン・ゴルディチューク 絵

タールを作り、糸をつむいでくらしている貧乏なおじいさんとおばあさんがいました。おじいさんに、タールで模様をつけた藁の牛を作ってもらうと、クマ・オオカミ・キツネが捕まりました。

ウクライナの昔話。本が大きいので、最後までしっかり持っていただけるかも確認してください。



科学のえほん

『あしたのてんきは はれ?くもり?あめ?』

福音館書店 1997年 451ノ

野坂勇作 作 時間：6分

テレビの天気予報を見なくても、雲や太陽を見てごらん、風のむきなどを感じてごらん。明日の天気がわかるよ。

昔から言われている俗説のようなものも、意外と当たる確立は高いようです。用語などの解説も最後に載っています。(中学年)



『あかちゃんてね』 小学館 2005年 491ホ

星川ひろ子・星川治雄 時間：7分

生後1時間から1歳になるまでをおった写真絵本。

後半にある、赤ちゃんの1年の成長がひと目で見られるようになってきているところは、じっくり見せるように、広げて、間をとってあげましょう。いのちの授業でも使えると思います。

(どの学年でも)



『いのちのつながり』 福音館書店 1991年 461ナ

中村運 文 佐藤直行 絵 時間：8分

植物も、魚も、鳥も人間も、いきものは遺伝子でつながっているきょうだい同士なんだ。

難しいテーマ「遺伝子」「DNA」について、命の不思議や、つながってきた命の尊さを伝えながら、わかりやすく解説します。途中の卵、犬、花の12コマに分かれているところは読まなくてもいいでしょう。少人数なら見せながら読んでもいいと思います。(中学年)



『うんちのちから』 主婦の友社 2006年 Eキ

ホ ウンミ 文 キム ビョンホ 絵 時間：5分

うんちをみれば、わかること。体の大きさ、どこにすんでいるか、なにをたべるか…。

形も色も大きさもおいも、生きものによってちがう、いろいろなうんち。うんちには、ひみつのすごいちからがあります。うんちをとおして、生きものが互いに支えあっていることや、地球上の生命がつながっていることに気づかせてくれます。(低学年)



『おちばのしたをのぞいてみたら』

ポプラ社 2000年 481ミ

皆越ようせい 写真と文 時間：5分

おちばのしたをのぞいてみたら、まるくなったダンゴムシ。ほかのむしもさがしてみよう。おちばのしたには、むしがいっぱい。

落ち葉の下でくらす小さな虫たちの世界を、迫力ある写真とともに紹介しています。落ち葉の季節に読んであげたい、体験につなげさせたい科学絵本です。(低学年)



『およぐ』

福音館書店 1981年 Eナ

なかのひろたか 作 時間：4分

犬も猫もいぬかき泳ぎ。どうして泳げるかって？それは体が水に浮くから。君もお風呂で確かめてごらん…。

プールの季節に読んであげたい絵本です。

(低学年～中学年)



『かさぶたくん』

福音館書店 2000年 Eヤ

やぎゅうげんいちろう 作 時間：9分

かさぶたってばんそうこうなんだよ。かさぶたの下では、新しいひふが作られているんだ。

身近なかさぶたをユーモラスに解き明かしながら、体の不思議に迫ります。本文と赤い字、手書き風の小さな字があります。読むところと読まないところを工夫してみてください。

(低学年～中学年)



『がぶり もぐもぐ!』

岩波書店 1999年 Eマ

ミック・マニングとブリダ・グランストーム 作 時間：6分

ある日、土から芽が出た。この芽を食べたいのはだれかな？

食物連鎖のおはなしです。生きものは食べるから生きているんだ、命はつながっているんだ、ということを伝えます。

(中学年)



『かみひこうき』

福音館書店 1976年 E八

小林実 文 林明子 絵 時間：3分

よく飛ぶ紙ひこうき、回転する紙ひこうき。形を工夫するといろいろな紙ひこうきができるよ。

読んだ後は、ぜひ紙ひこうきを作ってみてください。雨の日でも教室でなら、飛ばしっこができるかもしれません。

(低学年～中学年)

かみひこうき



『ガンバレ！！まけるな！！ナメクジくん』

偕成社 2004年 Eミ

三輪一雄 作 時間：9分

カタツムリはかわいいけど、ナメクジはきらい！という人、多いかもしれません。でも、ナメクジはもっと自由に遠くにいきたいと、カタツムリががんばって進化した姿だったのです。

嫌われもののナメクジが好きになる(?)本です。読み聞かせの時は、本文以外のところは読まなくてもいいでしょう。(中学年)



『くず つるしょくぶつのひみつ』

福音館書店 年 479ス

菅原久夫 文 今井真利子 絵 時間：5分

はるのおわりごろ、あきちのかきねに、つるをからませているしょくぶつをみたことがありますか…。

掛川市特産の葛布の原料である、植物の「くず」について説明された科学絵本です。繊維になることは記述がありませんが、くず粉のことは載っています。『どんどんのびる草』も紹介してあげてください。(低学年から中学年)



『くちばし どれが一番りっぱ?』

福音館書店 2006年 Eヤ

ピアンキ 文 藪内正幸 絵 時間：10分

ヒタキがシメにくちばしのことを話していると、次々に鳥がやってきて、自分のくちばし自慢をはじめます。

鳥によって、さまざまな形や大きさ、使い方ができるくちばしを持っていることがわかります。

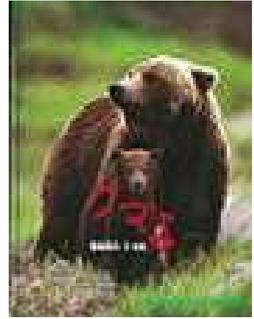
(中学年)



『クマよ』

福音館書店 1999年 489ホ
星野道夫 文・写真 時間：7分

「いつか おまえに 会いたかった」「気がついたんだ おれたちに 同じ時間が 流れていることに」アラスカなどの、自然や動物を取り続けた写真家、星野通夫さんの写真と、詩のような文で構成された本です。
(高学年)



『雲をみようよ』 光村教育図書 2006年 Eテ トミー・デ・パオラ 作 時間：8分

外へでて、空をみあげてごらん。きょうは、どんな雲がみえるかな？

巻雲、積雲、乱層雲など、雲の形や種類、どんな時にその雲ができるか、雲（天気）にまつわる言い伝えなどを紹介した、お天気科学絵本です。雲の名前は専門的で、難しく感じるかもしれませんが、雲を観察してみたくなる本です。(4年生～5年生)



『こいぬがうまれるよ』

福音館書店 1982年 Eコ
ジョアンナ・コール 文
ジェローム・ウェクスラー 写真 時間：6分

おとなりのいぬに、あかちゃんがうまれるの。いっぴきわたしが、もらうんだ…。

わくわくする子どもの気持ちも伝わってくるような文です。2ヶ月間の子犬の成長と変化を、写真でつづります。(低学年～中学年)



『これがほんとの大きさ！』

評論社 2008年 Eシ
スティーブ・ジェンキンス 作 時間：5分

世界の大きい生きもの、小さい生きものの、本当の大きさがわかります。

きり絵やはり絵も使って描いているので、立体的に見えます。大きい生きものは、手や顔など一部だけしか描かれていませんが、その先にある全体像を想像してみてください。(低学年～中学年)



『こんなしっぽでなにをするの？』

評論社 2007年 Eシ
スティーブ・ジェンキンス &
ロビン・ベイジ 共作 時間：5分

動物たちは、目や口、鼻や耳、しっぽや足を、いろいろなことに使います。人間とは違う使い方をする生き物もいるようです。

最後に、この本で紹介した生きものの解説が載っています。(中学年)



『ざっそう』

福音館書店 1976年 Eカ
甲斐伸枝 文・絵 時間：5分

はる。あぢちは、いろんなくさでいっぱいになる。
みんな かわいい はなをさかせている。

約30種のざっそうの、春から秋までの様子が、ていねいに描かれています。15ページと23ページは、絵が縦になります。

(低学年から中学年)



『ざりがに』

福音館書店 1976年 Eヨ
吉崎正巳 作 時間：5分

たんぼのそばのおがわで、みんながさわいでいる。
ひとりの子が、水の中に手を入れた。なにをとっているのだろう…

たんぼのザリガニを捕まえたら、片方のはさみを残して逃げていった！ザリガニの子育てや、からをぬいでいく様子など、ザリガニの成長を描いた科学絵本です。(中学年)



『しずくのぼうけん』

福音館書店 1969年 Eフ
マリア・テルリコフスカ 作
ボフダン・プテンコ 絵 時間：9分

おばさんのバケツから飛び出たひとしずくの水は、旅に出ます。空にのぼって雨になったり、地上におりて氷になったり…、水の旅は続きます。

雨が降るしくみや、凍ると膨張することなど、水にもいろいろな姿があることがわかる科学物語です。(中学年)



『しっぽのはたらき』 福音館書店 1972年 Eヤ
川田健文 藪内正幸 絵 時間：8分

これはくもざるです。しっぽでくだものをもぎとっています。べんりなしっぽですね。

表紙からおはなしが始まっています。動物のしっぽが描かれ、「なんのしっぽでしょう」と問いかけると、上半身が次のページへとつながっています。しっぽの特徴や役割などが、丁寧に描かれた絵とともに説明されます。問いかげに答えながら聞いてくれるでしょう。(低学年～中学年)



『しょうたとなっとう』 ポプラ社 2003年 619ホ
星川ひろ子・星川治雄 写真と文 時間：11分

納豆が大嫌いだったしょうたは、夏の初めにおじいちゃんと大豆の種をまきました。何日かして畑を見ると「あっ、ぼくのまいた種が芽を出してる！」

一緒に育てた大豆でおじいちゃんが納豆を作ってくれました。日本食のすばらしさと、二人の気持ちが伝わってくるような写真絵本。食育の本としても活用できそうです。(中学年)



『すみれとあり』

福音館書店 2002年 Eヤ
矢間芳子 作 時間：5分

コンクリートのわれめにさいているすみれをみつけたよ。どうしてこんなところにさくのかな。

身近な植物と昆虫、すみれとありの協力関係を、写実的な絵と、やさしい語り口で説明しています。すみれが花を咲かせ、種をとばす頃、春に読んであげたい科学絵本です。(2年生～3年生)

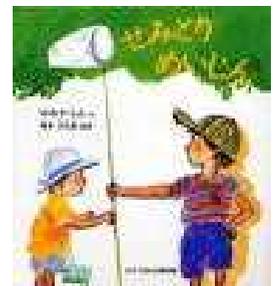


『せみとりめいじん』

福音館書店 2001年 E力
かみやしん 作 時間：8分

てっちゃんは、まだセミをつかまえたことがありません。せみとり名人のごんちゃんに教わりながらせみとりに挑戦です。

セミとり網の作り方などもわかる科学読み物です。セミの鳴き声は「あ、〇〇ゼミだ！」とわかるように読んであげるといいですね。(低学年～中学年)



『だいず えだまめ まめもやし』

福音館書店 2004年 Eナ
こうやすすむ 文 なかしまむつこ 絵
時間：6分

いちろうとはなことじろうは、となりのおじいさんからもらった大豆を育てて増やそうとします。

大豆、枝豆、まめもやしは、形がちがう時にちがう名前がついていたもので、同じ大豆だった、ということに気づきます。(中学年)



『だいすきなもの ネパール・チャウコット村のこどもたち』

偕成社 2007年 Eク
公文健太郎 写真 時間：8分

ネパールにあるチャウコット村で、みんながだいすきなものを教えてくれました。

子どもたちの生き生きとした表情をとらえた写真絵本。日本とは、景色や環境、生活もずいぶん違いますが、自分が本当に大好きなもの、大切なものってなんだろう、と考えるきっかけになりそうです。(高学年)



『太陽（宇宙たんけんたい1）』 小峰書店 2005年 Eフ

フランクリン・M・ブランリー 文
エドワード・ミラー 絵 時間：10分

空が明るくなると、星は見えない、と思っているかもしれないけれど、昼間だってよく見える大きな星があるんだ。太陽だよ。

太陽の大きさ、距離、地球との関わり、私たち生きものとの関わりなどを、わかりやすく説明してくれる科学絵本です。(高学年)



『たんぽぽ』

金の星社 1983年 Eカ
甲斐信枝 作・絵 時間：6分

春がくるとたんぽぽが花を咲かせる。暖かい日、寒い日、雨の日、たんぽぽはいろいろな表情をしている。ある日、ねたままだったたんぽぽがおきあがった。わたげだ！

つぼみからわたげをとばすまでを大きなはっきりした絵で描きます。8ページと24ページは本が縦に、28・29ページは開くようになっています。(低学年～中学年)



『つくし』

福音館書店 1997年 Eカ
甲斐信枝 作 時間：6分

春になるとよきによきあらわれるつくし。つくしのねっこをたどってほったら、どこまでもどこまでものびている。

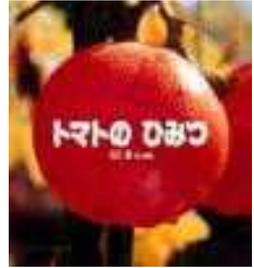
次の春にまた出てくるまでの、つくしの1年をおいします。地下での様子や、つくしの成長・変化などが、わかりやすく描かれています。(低学年～中学年)



『トマトのひみつ』 福音館書店 1998年 Eヤ 山口進 文・写真 時間：5分

夏のある夜、畑に飛んでくる虫を食べようと、クモがトマト畑に巣を作り始めた。でも、いくら待ってもトマトには虫が来ない。どうしてだろう？トマトは、虫を追い払うひみつの力をもっているのさ。

アップでとらえた写真と、やさしい文で、トマトのにおいのひみつがわかります。トマトの季節に読んで、実際に観察・体験してほしい科学絵本です。(低学年)

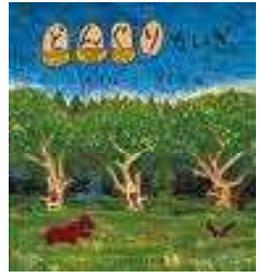


『どんぐりかいぎ』

福音館書店 1995年 Eカ
こうやすすむ 文 片山健 絵 時間：9分

どんぐりがたくさんなる年と、すこししかならない年が1年おきにあります。どうして「なりどし」と「ふなりどし」があるのでしょうか。

作者が考えたその理由を、どんぐりの生態、どんぐりと動物の関わり、自然のしくみなどをまじえながら、おはなし仕立てで伝えます。(低学年～中学年)



『どんどのびる草』 新日本出版 1993年 471ム

村山幸三郎 文 伏原納知子 絵 時間：7分

春、枯れたようになっていたクズが、6月になるとどんどのびはじめます。ひとつのクズの根もとからあちこちにのびているつるの長さを合計したら、なんと、2000メートルにもなりました…。

人びとのくらしに昔から関わってきたクズ、クズで作る食べものや、クズで作る布(葛布)についての説明もあります。(低学年～中学年)



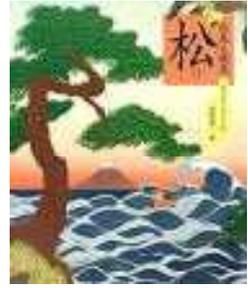
『日本の風景 松』

理論社 2005年 Eア

ゆきのようこ 文 阿部伸二 絵 時間：10分

松は、日本の風景を彩り、暮らしにも大切な役割を果たしてきました。この本では、クロマツとアカマツと日本人との関わりを紹介し、日本の心にふれます。

松林や落ち葉、たきぎ、松脂（まつやに）、炭…、日本人の生活にいかになら必要とされ、深く関わっているかがわかります。（中学年～高学年）



『ピチャン、ポチャン、ザブーン 水ってふしぎ!』

理論社 2000年 Eマ

マイク・マニング プライタ・グランストローム 時間：9分

海から始まる水の物語は、また海へと戻っていきません。読み聞かせの時は、説明文は読まなくていいでしょう。読み終わったら、もう一度じっくり見られるように、教室に置いておくといいと思います。

環境や水（上下水道）のことなどを調べる時の、参考図書にもなりそうです。（中学年）



『ピリカ、おかあさんへの旅』

福音館書店 2006年 Eサ

越智典子 文 沢田としき 絵 時間：13分

北の海にくらすサケのピリカは、ある日なつかしいにおいを思い出します。お母さんのおいにおいに導かれ、ピリカのふるさとへの旅が始まります。

物語ですが、サケの学習の時にも参考になりそうです。（低学年～中学年）



『ふゆめがっしょうだん』

福音館書店 1990年 Eト

富成忠夫・茂木透 写真 長新太 文 時間：2分

冬芽の下に顔が見えるよ！木によって人に見えたり、動物に見えたり、たくさんの顔が並んでいたり…。冬の林に出かけてみよう。

最後の解説に木の名前が載っています。実際は虫めがねで見ないとよくわからないくらい小さいものもありますが、読んだら確かめてみたくなる写真科学絵本です。（低学年～中学年）



『ぼく、だんごむし』

福音館書店 2005年 Eト

得田之久 文 たかはしきよし 絵 時間：6分

「だんごむし」は、子どもたちに人気のあるむしのひとつです。身近なだんごむしですが、読むと、さらに発見がありそうです。落ち葉を食べるだけでなく、時折コンクリートもなめるそうです。

ダンゴムシの生態がわかりやすく描かれた観察絵本です。(低学年～中学年)



『ぼくたちのコンニャク先生』

小学館 1996年 Eホ

星川ひろ子 写真・文 時間：3分

先生の足って、手なのかなあ？ 園児たちの視線がコンニャク先生の足先に注がれる。はさみを持ったり、めいろをかいたりするふしぎな足。

脳性まひの保父さんと園児たちとの日々を描いた写真絵本。福祉の学習の時にも使えます。

(中学年～高学年)



『ぼくは そうだ』

福音館書店 2008年 Eコ

五味太郎 作 時間：4分

ぼくはそうだ。とても大きいりっぱなそうだ。みんなぼくを写真に撮ったりテレビに出したがるが、どちらも大嫌い。なぜなら、どちらもそれほど大きくは見えないから。

ユーモアたっぷりの文で、大きさや重さについて、他のものとの比較で、説明していきます。(低学年)



『ほね』

福音館書店 1981年 Eホ

堀内誠一 作 時間：7分

魚を食べると骨が残る。でもタコには骨がない。もし、あなたのからだに骨がなかったら、あれれ、立つこともできない。

私たちの体の大切な骨のしくみや役割を、魚やタコの話から、わかりやすい絵と文で楽しく説明していきます。(低学年)



『みえないってどんなこと?』

岩崎書店 2002年 Eホ

星川ひろ子 写真・文 時間：11分

すーさんが、盲導犬と一緒に目の見えないお友達、めぐみさんを連れてきました。みんなで目が見えないってどんなことかを体験したり、めぐみさんからおはなしを聞きます。

福祉について学習する時にも参考になる、写真絵本です。(中学年)



『みずたまレンズ』

福音館書店 2008年 Eイ

今森光彦 作 時間：3分

ざー、ざー。ぴしゃっ、ぴしゃっ。雨がはじけてつぶになる。くもの巣にいっぱいひっかかった雨のつぶ。あじさいの花にこぼれた雨のつぶ…。

生きものや植物と、水のたまの一瞬をとらえた美しい写真絵本です。読んだら、外へ出て、みずたまを見つけてみたくなりそうです。(低学年)



『ミミズのふしぎ』

ポプラ社 2004年 483オ

越智ようせい 写真・文 時間：5分

公園で見つけた小さな土のおだんご。これはミミズのウンチ。ミミズにはふしぎがいっぱい!

表紙の写真はミミズが小枝をくわえたところ。ミミズの産卵や食事、越冬など、身近な生きものミミズの珍しい驚きの写真が次々登場します。(低学年～中学年)



『むしをたべるくさ』

ポプラ社 2008年 471ワ

渡辺弘晴 写真 伊地知英信 文

時間：5分

ハエトリグサ、モウセンゴケ、ウツボカズラなど、虫から栄養をもらって生きている食虫植物。どうやって虫をつかまえるのかな?

食虫植物の不思議なしかけを、美しい写真で解説しています。(低学年から中学年)



『めだかのぼうけん』

ポプラ社 1981年 487ワ
渡辺昌和 写真 伊地知英信 文
時間：4分

めだかが小さな生きものを食べているところや、卵を産んでいるところ、卵が成長する様子などを、美しい写真でとらえています。

1年間の生態をわかりやすい言葉とともに説明しています。(中学年)



『もうどうけんドリーナ』

福音館書店 1986年 Eツ
土田ヒロミ 文 時間：5分

7ひきのこいぬが、盲導犬訓練場でうまれました。2ヶ月たつと、パピーウォーカーにあずけられます。7ひきのうちのドリーナは、よしおくんのいる家に。

犬のドリーナが生まれて、訓練して、ましまさんの盲導犬として暮らすようになるまでを追った写真絵本です。盲導犬について、的確に伝えています。(低学年～中学年)



『雪の上のなぞのあしあと』

福音館書店 1997年 Eア
あべ弘士 作 時間：9分

夜の動物園の見回りをしていると…、ややっ、なぞの足跡発見！何かが動物園に侵入したのかな、それとも動物が逃げ出したのか？

作者のあべ弘士さんが、旭山動物園の飼育係をしていた時に実際にあったことをおはなしにしたものだそうです。(低学年～中学年)



『雪の写真家ベントレー』

BL出版 1999年 Eア
ジャクリン・ブリッグズ・マーティン 作
メアリー・アゼアリアン 絵 時間：10分

ウィリーは、雪がふると大喜びで外にとびだします。そして、まいおちる雪をじっと見つめるのです。

小さな農村で、生涯を雪の研究と結晶の写真撮影にささげ、世界的な雪の専門家としてたたえられるようになったW・A・ベントレーの伝記絵本です。(高学年)



『リボンのかたちのふゆのせいざオリオン』

福音館書店 1991年 Eス

矢板康磨 写真と文 杉浦範茂 絵と構成

時間：3分

今夜晴れていたら見つけてみよう、リボンのかたちをした冬の夜空に輝く大きな星座、オリオン座を。

14・15ページは見にくいですが、見えなくて大丈夫でしょう。星がきれいに見えるような冬の日に読んであげたい科学絵本です。(中学年)



『ローザ』

光村教育図書 2007年Eコ

ニッキ・ジョヴァンニ文

ブライアン・コリアー絵 時間：14分

今から60年ほど前、アメリカではひどい人種差別がありました。

黒人が権利を勝ち取る運動に立ち上がるきっかけを作ったといわれる、ローザ・パークスの、静かな、しかし力強い決意と行動の物語です。後ろの方に、広げるページがあります。(高学年)



ことばのえほん

『うそつきのつき』

文溪堂 1996年 Eア

内田麟太郎 作 荒井良二 絵 時間：4分

このおじさんは わらいません。ニワトリが ニワトリをかっていても。…イタチが、としをはたちといつても。…

文も絵もユニークな、だじゃれの絵本です。文章は短いですが、おもしろさを充分味わえるよう、反応を見ながら、適度な間を取って読むといいと思います。(中学年～高学年)



『かぞえうたのほん』

福音館書店 1990年 Eス

岸田衞子 作 スズキコージ 絵 時間：6分

いちばで いぬが、にわとり にらんだ、さんま さかだち、しか しらんぶり…。(「すうじさがしかぞえうた」) そのほか、「いーいーいーかぞえうた」「ひのたまかぞえうた」「へんなひとかぞえうた」など、楽しいかぞえ歌が六つ入った絵本です。

ユニークで印象的な絵とともに楽しめます。(低学年～中学年)



『かっきくけっこ』

くもん出版 2009年 Eホ

谷川俊太郎 文 堀内誠一 絵 時間：3分

「あいうーえーお」「かっきく けっこ」「ささしすせせそ」「だちづでどどど」…

五十音を言葉と絵にした、ユニークな絵本です。読み方に決まりはありませんので、感じたままに、感覚で読めばいいと思います。導入や気分転換、息抜きにぴったりな絵本です。(低学年)



『これはのみのびこ』

サンリード 1979年 Eワ

谷川俊太郎 文 和田誠 絵 時間：6分

「これはのみのびこ」「これはのみのびこがすんでいるねこのごえもん」「これはのみのびこがすんでいるネコのごえもんのしっぽふんずけたあきらくん…」

ページをめくると、言葉がどんどんが増えてつながっていく、言葉遊びの絵本です。文章が長くなっていく後半部分は、息つぎの箇所を決めておくといいと思います。(低学年～中学年)



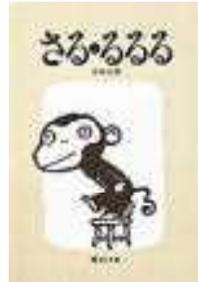
『さる・るるる』

絵本館 1979年 Eコ

五味太郎 作 時間：2分

表紙のさるが主人公です。すべて「る」で終わる言葉でお話が進みます。「さる・くる」「さる・みる」おいしそうなお菓子のなる木を見つけると、「さる・ける」「さる・とる」

「さる・うる」…。長めの本を読んだあとや、時間が少し余った時などに、組み合わせて読むといいと思います。
(どの学年でも)



『知らざあ言って聞かせやしょう』

ほるぷ出版 2004年 Eイ

河竹黙阿弥 文 飯野和好 構成・絵 時間：3分

「知らざあ言って聞かせやしょう。浜の真砂と五右衛門が歌に残せし盗人の、種は尽きねえ七里ヶ浜、…」

歌舞伎の名セリフを、迫力ある絵で描いた、『声に出すことばえほん』シリーズの1冊です。リズムカルに大きな声で読んであげたい絵本です。
(どの学年でも)



『たあんき ぽおんき たんころりん』

福音館書店 2006年 Eフ

長谷川摂子 文 降矢なな 絵 時間：8分

たぬきがね どんぐりころころ おいかけた。たあんき ぽおんき たんころりん。きつねがね かやのみからから おいかけた。たあんき ぽおんき…。

表情豊かな楽しい絵で描かれた、13のことば遊びうたが登場します。テンポ良く読むといいでしょう。(低学年～中学年)



『ふしぎなナイフ』

福音館書店 1997年 Eフ

中村牧江/林建造 作 福田隆義 絵 時間：2分

なんのへんてつも無い1本のナイフ。ページをめくっていくと、「ふしぎなナイフがまがる」「ねじれる」「おれる」「われる」「とける」…。そして「のびて ちぢんで ふくらんで…」

ナイフの様にびっくりします。イメージが広がる楽しい絵本です。気分転換にも。(どの学年でも)



『やさいのおなか』

福音館書店 1997年 Eキ
きうちかつ 作 時間：4分

ふしぎな形をしたシルエット、「これなあに？」。
ページをめくると答えがわかります。

いろいろな野菜の断面図（おなか）が登場する、
参加型の絵本。長めの本のあとや、時間が少し余った
時などに取り入れるといいと思います。「やさいの
せなか」「くだものなんだ」もあります。（低学年～中学年）



『わにがわになる』

こぐま社 1977年 Eタ
多田ヒロシ 作 時間：4分

表紙の「わにが わになる」のほか、「はちと はち
が はちあわせ」「こうもりの こもり」「ぱんだの き
ゅうしょく ぱんだ」など、楽しい語呂合わせが、次
々と登場する絵本です。

気分転換や息抜きにもぴったりの絵本です。
（低学年～中学年）



平成24年4月1日
掛川市立図書館発行

掛川市立中央図書館	0 5 3 7 - 2 4 - 5 9 2 1
掛川市立大東図書館	0 5 3 7 - 7 2 - 1 1 4 3
掛川市立大須賀図書館	0 5 3 7 - 4 8 - 5 2 6 9